Kyorin

# 健康はキョーリンの願いです。

## アニュアルレポート 2013

2013年3月期　キョーリン製薬ホールディングス株式会社

100周年へ!
90th Anniversary

# 連結財務ハイライト

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
3月31日に終了した各事業年度および3月31日現在

百万円

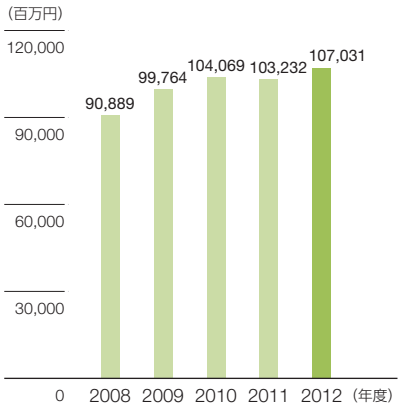
| | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | **2012年度** |
|---|---|---|---|---|---|
| **業績結果** | | | | | |
| 売上高 | 90,889 | 99,764 | 104,069 | 103,232 | **107,031** |
| 営業利益 | 8,952 | 13,261 | 16,443 | 14,464 | **17,948** |
| 売上高営業利益率(%) | 9.8 | 13.3 | 15.8 | 14.0 | **16.8** |
| 当期純利益 | 2,037 | 8,848 | 10,927 | 9,231 | **12,422** |
| 売上高当期純利益率(%) | 2.2 | 8.9 | 10.5 | 8.9 | **11.6** |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,575 | 12,027 | 6,805 | 8,913 | **11,544** |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | (4,229) | 412 | (1,806) | (4,926) | **(7,187)** |
| フリー・キャッシュ・フロー | 346 | 12,439 | 4,999 | 3,987 | **4,357** |
| 研究開発費 | 10,531 | 11,807 | 12,495 | 13,964 | **11,059** |
| 売上高研究開発費比率(%) | 11.6 | 11.8 | 12.0 | 13.5 | **10.3** |
| 設備投資額 | 1,612 | 1,291 | 1,668 | 1,952 | **6,576** |
| 減価償却費 | 3,799 | 2,810 | 2,458 | 2,363 | **2,738** |
| ROE(自己資本当期純利益率)(%) | 2.1 | 8.8 | 10.1 | 8.0 | **10.0** |
| ROA(総資産当期純利益率)(%) | 1.6 | 6.8 | 7.7 | 6.3 | **8.3** |
| **財政状態** | | | | | |
| 総資産 | 124,552 | 137,190 | 147,234 | 145,673 | **154,968** |
| 純資産 | 96,501 | 104,911 | 111,706 | 118,201 | **129,099** |
| 自己資本比率(%) | 77.5 | 76.5 | 75.9 | 81.1 | **83.3** |

円

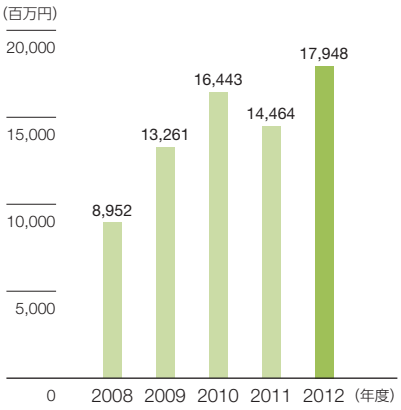
| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **1株当たり情報** | | | | | |
| 1株当たり純資産 | 1,290.67 | 1,403.60 | 1,494.83 | 1,581.94 | **1,727.86** |
| 1株当たり当期純利益 | 27.24 | 118.37 | 146.21 | 123.54 | **166.25** |
| 1株当たり配当金 | 13.00 | 50.00 | 45.00 | 45.00 | **50.00** |
| 配当性向(%) | 47.7 | 42.2 | 30.8 | 36.4 | **30.1** |

| | |
|---|---|
| **売上高** | 医薬品事業における新薬事業、後発品事業の売上高は前年度を上回る実績で推移したことに加え、2012年10月1日に事業を開始したキョーリン製薬グループ工場(株)の売上高が寄与し連結売上高は1,070億円(前年度比3.7%増)となり、過去最高の売上高となりました。 |
| **営業利益** | 薬価改定の影響、キョーリン製薬グループ工場(株)を連結子会社化した影響等により原価率が1.7ポイント上昇しましたが、増収により売上総利益は前年度比で6億円増加しました。また、販売費及び一般管理費は研究開発費の低減(前年度比20.8%減)により減少し、営業利益は179億円(前年度比24.1%増)となり過去最高を更新しました。 |
| **当期純利益** | 当期純利益は、124億円(前年度比34.6%増)となりました。 |
| **ROE(自己資本当期純利益率)** | 利益面の増加に伴い、10.0%(前年度比2.0ポイント増)となりました。 |

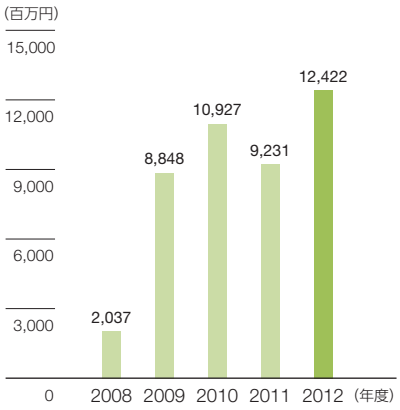
## 売上高



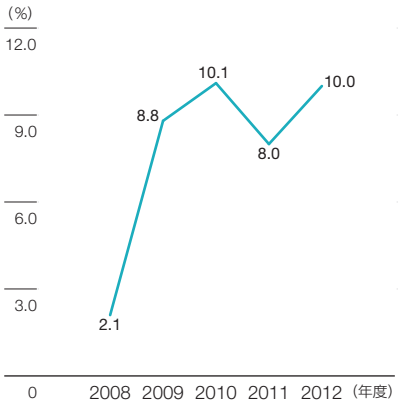

## 営業利益



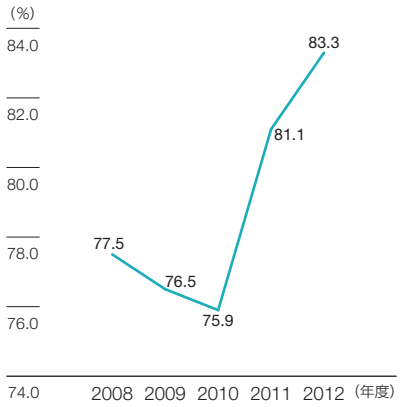

## 当期純利益



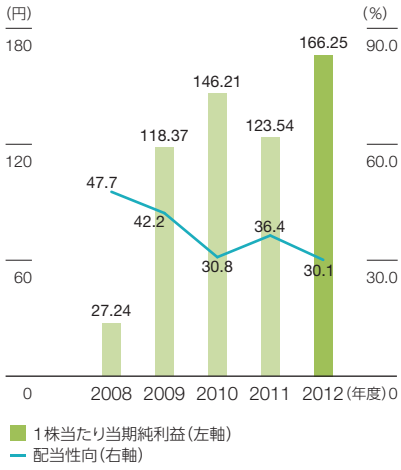

## ROE（自己資本当期純利益率）




## 自己資本比率




## 1株当たり当期純利益および配当性向




# 目次


表紙裏.. 連結財務ハイライト
02 ..... プロフィール
04 ..... ステークホルダーの皆様へ
10 ..... 特集：価値創造の源泉
18 ..... 呼吸器領域のプレゼンス
19 ..... 主要製品
20 ..... アライアンス
21 ..... 開発品の動向
22 ..... コーポレート・ガバナンス
25 ..... 役員紹介
26 ..... CSRの取り組み
28 ..... 財務分析
32 ..... 連結貸借対照表
34 ..... 連結損益計算書／連結包括利益計算書
35 ..... 連結株主資本等変動計算書
36 ..... 連結キャッシュ・フロー計算書
37 ..... 個別貸借対照表／個別損益計算書（キョーリン製薬ホールディングス株式会社）
38 ..... 組織図／主な子会社・関連会社
39 ..... 会社情報

# プロフィール

キョーリン製薬グループは、中核子会社である杏林製薬(株)の創業以来、人々の健康に貢献するという製薬企業としての使命に真摯に取り組み、現在は、創薬から医薬品の製造販売を行う医薬品事業およびスキンケアを中心としたヘルスケア事業を展開しています。多様化する人々の健康ニーズにお応えするために、優れた新薬のいち早い創製、健康ニーズの拡がりに応じた事業の多核化を推進し、一層の企業価値の向上を目指しています。

[企業理念]

**キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。**

## 沿革

### 1923 → 1977

**1923年**
杏林製薬(株)の前身である東洋新薬社を創立

**1931年**
杏林化学研究所を設立

**杏林伝説**

会社の称号については真の医療を表す「杏林」の二字が起源となっています。

昔、中国の董奉(とうほう)と云う医師が無報酬で治療に当り重症者が全快した時は五株の杏を、軽症者には一株の杏を移植させました。ところが、年と共にその近郷近在は鬱蒼(うっそう)とした杏の林となりました。(神仙伝より)

それから董奉の徳を称え、「杏」又は「杏林」の字句が一般的に医、或は医療などを表す言葉として中国から日本に伝わりました。

**1940年**
名称を杏林製薬(株)に改称
販売部門を独立して
杏林薬品(株)を設立

**1946年**
岡谷工場設置

**1957年**
医学機関誌「ドクターサロン」
創刊

**1961年**
利尿・降圧剤「ベハイド」発売

**1962年**
杏林化学研究所
(後の開発技術センター)設置

**1965年**
鎮痛剤「キョーリンAP2」発売
経口血糖降下剤「デアメリンS」発売
神田駿河台に本社屋が完成

**1967年**
野木工場設置(現在は閉鎖)

**1971年**
脂質代謝・末梢血行改善剤
「コレキサミン」発売

**1974年**
代用血漿・体外循環希釈剤
「ヘスパンダー」(HES)発売

**1976年**
「ヒドロキシエチルスターチ」
(HES)をフリマー社
(独、現バクスター社)へ導出

**1977年**
中央研究所(現創薬研究所)設置

### 1980

**1980年**
「ノルフロキサシン」(NFLX)を
メルク社(米)へ導出

**1981年**
気道粘液調整・粘膜正常化剤
「ムコダイン」発売

**1982年**
「ノルフロキサシン」(NFLX)を
アストラ社(スウェーデン、
現アストラゼネカ社)、ブーツ社
(英、現アボット社)へ導出

**1983年**
「ノルフロキサシン」(NFLX)を
アメリカンホームプロダクツ社
(米、現ファイザー社)へ導出

**1984年**
広範囲経口抗菌剤
「バクシダール」(NFLX)発売

**1986年**
「フレロキサシン」(FLRX)を
F.ホフマン・ラ・ロシュ社
(スイス)へ導出
胃炎・胃潰瘍治療剤
「アプレース」発売

**1989年**
気管支喘息・脳血管障害改善剤
「ケタス」発売
広範囲抗菌点眼剤
「バクシダール点眼液」発売

**1991年**
広範囲経口抗菌剤
「小児用バクシダール」発売

**1992年**
杏林製薬(株)・杏林薬品(株)
合併

**1993年**
持続型ニューキノロン剤
「メガロシン」(FLRX)発売

**1995年**
研究センター
(現開発研究所)設置
(合成研究、開発技術、
製剤技術および安全性技術の
各センターを統合)
能代工場設置

**1996年**
日清製薬(株)に資本参加(社名を
日清キョーリン製薬(株)に変更)
「ガチフロキサシン」(GFLX)を
ブリストル・マイヤーズスクイブ
社(米)へ導出

**1998年**
「ミルトン」事業をP&Gより買収

**1999年**
東証2部上場

[長期ビジョンHOPE100]

## Aim for Health Of People and our Enterprises

長期ビジョン「HOPE100」は、グループの中核子会社である杏林製薬（株）の創業100周年に当たる2023年度をみすえた長期ビジョンであり、「病気の治療・予防、健康の維持・増進に関連する事業を通じて人々の健康に貢献し、健康生活応援企業に進化する」という強い想いが込められています。

長期ビジョン「HOPE100」は、当社グループの事業目的や存在意義を記した企業理念の具現化構想であり、目指す未来像です。キョーリン製薬グループの未来像を「キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、2023年には社内外が認める健全な健康生活応援企業へと進化します」というステートメントとして掲げ、事業リスクの分散を図り、健全かつ安定的な持続成長を目指します。

## 2000 → 2013

**2000年**
東証1部指定
「ガチフロキサシン点眼液」を
アラガン社（米）へ導出

**2001年**
気管支喘息治療剤
「キプレス錠」発売
米国にKyorin USA, Inc.
（100%出資）を設立

**2002年**
ドイツにKyorin Europe GmbH
（100%出資）を設立
広範囲経口抗菌薬「ガチフロ」
（GFLX）発売

**2004年**
米国のActivX Biosciences, Inc.を
100%子会社化

**2005年**
東洋ファルマー（株）
（現キョーリン リメディオ（株））の
株式を取得（子会社化）
ドクタープログラム（株）を100%
子会社化

**2006年**
（株）キョーリン（現キョーリン
製薬ホールディングス（株））との
株式交換により、持株会社体制へ
移行
（杏林製薬（株）は上場廃止、
（株）キョーリンが東京証券取引所
市場第1部に上場）
能代工場新製剤棟を新設

**2007年**
代用血漿・体外循環希釈剤
「ヘスパンダー」「サリンヘス」に
係わるビジネスを
フレゼニウスカービ社（独）へ
譲渡
過活動膀胱治療剤
「ウリトス錠0.1mg」発売
気管支喘息治療剤
「キプレス細粒4mg」発売

**2008年**
気管支喘息・アレルギー性
鼻炎治療剤
「キプレス錠5mg」発売
SkyePharma社と「Flutiform」
の国内ライセンス契約締結
杏林製薬（株）と
日清キョーリン製薬（株）が合併
潰瘍性大腸炎・クローン病
治療薬「ペンタサ錠500」発売

**2009年**
「ガチフロキサシン点眼液」の
中国での独占的販売権を付与す
る契約を千寿製薬（株）と締結
Merz社と耳鳴治療薬
「Neramexane」の
国内ライセンス契約締結

**2010年**
商号を（株）キョーリンから
キョーリン製薬ホールディングス
（株）へ変更
気道粘液調整・粘膜正常化剤
「ムコダインDS50%」発売

**2011年**
Almirall社と慢性閉塞性肺疾患治
療薬「Aclidinium Bromide」につ
いてライセンス契約を締結
過活動膀胱治療剤
「ウリトス錠0.1mg」の
口腔内崩壊錠を発売

**2012年**
環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」発売
MSD滋賀工場（現キョーリン
製薬グループ工場（株））を取得
（子会社化）

医療用外用抗真菌剤
「ペキロンクリーム0.5%」に
係わるビジネスを
ガルデルマS.A.（スイス）へ譲渡

**2013年**
神田駿河台「御茶ノ水ソラシティ」
に本社移転
潰瘍性大腸炎治療薬
「ペンタサ坐剤1g」発売

### コーポレートマークについて

杏の実をハート型にした3本の曲線が人々の笑顔を表しています。併せて、患者さん、ご家族、医療従事者の方々3者、また予防・治療・予後のキョーリンの目指す3つの核となるビジネスも表しています。

オレンジは、誠実な温かさ
バイオレットは、信頼を生み出す技術（力）
ライトグリーンは、のびのびいきいきとした・創造性ゆたかなを表します。

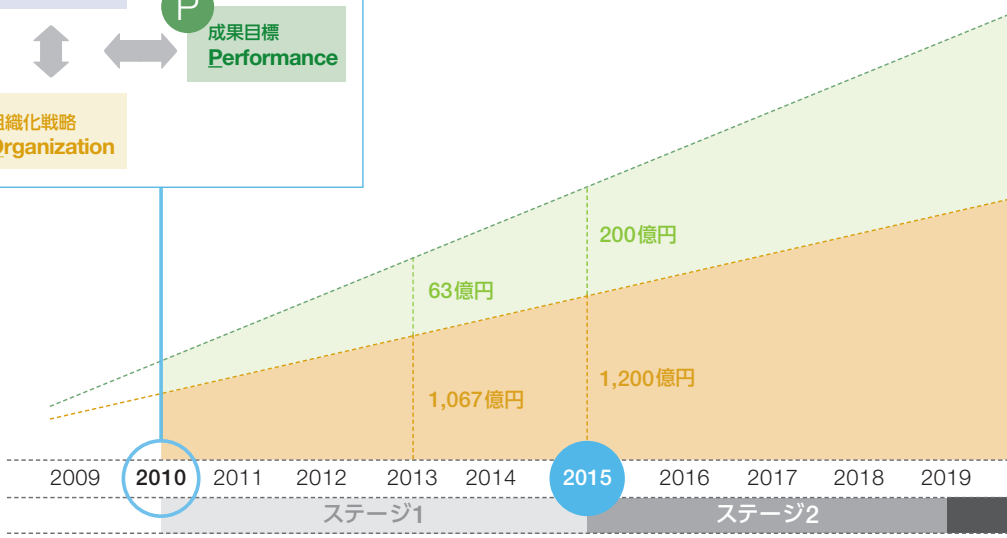
Kyorin

# ステークホルダーの皆様へ

## 成長イメージ

**「HOPE100 −ステージ1−」の構成**

長期ビジョン達成のための中期経営計画「HOPE100 −ステージ1−」は、事業戦略(Strategy)、組織化戦略(Organization)、成果目標(Performance)の3つの要素によって構成されています。それぞれの施策に着実に取り組むことで、さらなる企業価値の向上を目指していきます。



# 長期ビジョン「HOPE100」および中期経営計画「HOPE100 －ステージ1－」の実現に取り組む

キョーリン製薬グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の下、優れた医薬品の提供により病気の治療に貢献することに加え、人々の健康の維持・増進から病気の予防まで、多様化する健康ニーズにも対応するヘルスケア事業ポートフォリオの構築により、存在意義を認められる企業として発展することを目指しています。

企業理念の具現化に向けて2010年度に策定した長期ビジョン「HOPE100」では、医薬品事業を中心にヘルスケア事業の多核化を推進するとともに「事業は人にあり」という考えを大切にし、社員が熱意を持って仕事に取り組むことのできる「働きがいNo.1企業」の実現に取り組むこととしました。

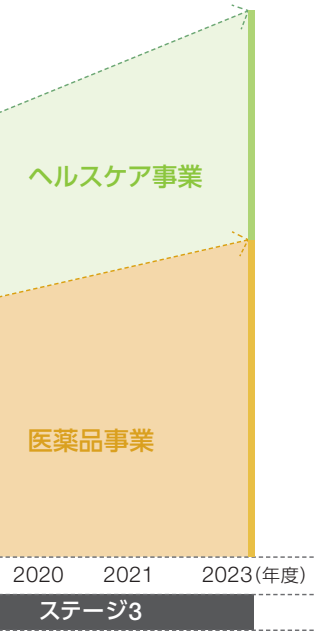
事業環境が大きく変化する中、2012年度（2013年3月期）の業績は、過去最高の売上高、利益を達成することができました。

2013年度（2014年3月期）は、グループの中核子会社である杏林製薬（株）が創業90周年を迎え、長期ビジョン「HOPE100（2010～2023年度）」実現のファーストステップと位置づける中期経営計画「HOPE100 －ステージ1－（2010～2015年度）」の折り返しの年度にあたります。当社グループは、その最終年度である2015年度の出口目標達成に向け、過去最高の売上高、利益の更新と実行プログラムの着実な進捗にグループ一丸となって取り組んでまいります。

**健康はキョーリンの願いです。**

2013年7月

代表取締役社長　山下　正弘



# Q1

**2012年度の事業環境や決算概要についての総括をお聞かせください。**

## Answer: 01

薬価基準の改定など厳しい事業環境の下、過去最高の売上高、利益を更新しました。

2012年度の事業環境は、薬価基準の改定(業界平均:6.0%、杏林製薬(株):6%台)など、薬剤費の抑制を目的とした諸施策により、一層厳しさを増しました。

このような環境下において、2012年度は医薬品事業では気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」の売上が伸長するとともに、2012年10月より事業を開始した連結子会社のキョーリン製薬グループ工場(株)が増収に寄与しました。また、後発医薬品事業では、保険調剤薬局への売上および他社受託生産品の売上が増加しました。ヘルスケア事業では景気低迷による消費の減少の影響等により売上は前年度を下回りました。その結果、連結売上高は1,070億31百万円(前年度比3.7%増)となり、過去最高を更新することができました。

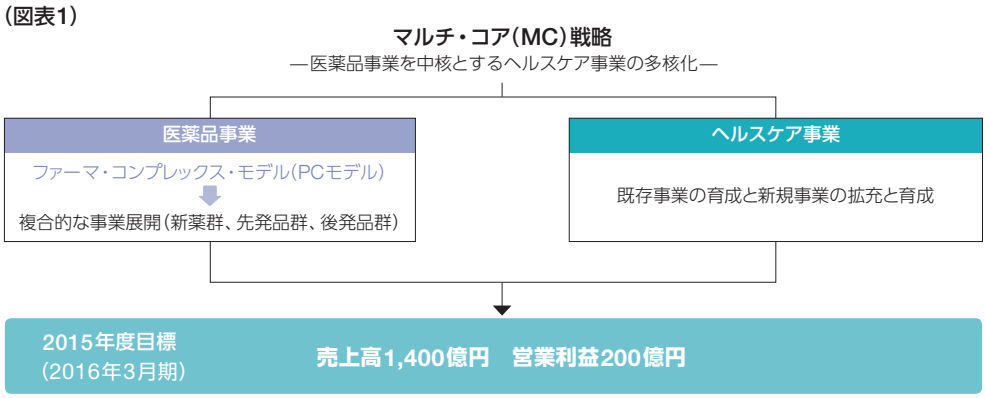
利益面では、研究開発費が開発パイプラインの進展による前年度の増加の反動により、前年度比20.8%減と大幅に減少したことから、販売費及び一般管理費が前年度を下回り、営業利益は179億48百万円(前年度比24.1%増)となり過去最高を更新しました。

**主力製品の売上実績・推移**

(億円)

| | 2011年度実績 | 2012年度実績 | 2013年度予想 | 対前年度増減 | 前年度比(%) | 2015年度予想 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| キプレス | 368 | **396** | 408 | 12 | 3.2 | 400 |
| ムコダイン | 215 | **191** | 187 | (4) | (2.0) | 240 |
| ペンタサ | 180 | **176** | 186 | 10 | 5.6 | 190 |
| ウリトス | 63 | **75** | 84 | 9 | 13.4 | 100 |

**(図表1)**



## Q2

**2012年度までの実行プログラム進捗の評価と今後の課題をお聞かせください。**

## Answer: 02

持続的な成長に向けた実行プログラムの着実な進展により、強固な事業ポートフォリオの構築を目指します。

これまでの3年間の成果として、新薬事業では開発パイプラインの順調な進展がみられ、後発医薬品事業では、グループ間の連携や自社開発を起点とする後発品の新しい事業モデルの構築に向け、歩みを進めることができました。生産部門では、当社グループの新生産体制構築への足がかりとなるキョーリン製薬グループ工場(株)の発足も大きな成果といえると思います。ヘルスケア事業では、環境衛生事業の事業展開につながる環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の販売開始など、一歩を踏み出すことができました。

一方で、医薬品事業を中心としてヘルスケア事業の多核化を目指す「マルチ・コア(MC)戦略」(図表1)に基づく強固な事業ポートフォリオの構築については、さらに加速していかなければならないと認識しています。そのために、これまで以上にグループが一丸となって積極的な事業展開に取り組んでまいります。

## Q3

**中期経営計画「HOPE 100 −ステージ1−」の出口にあたる2015年度を見据えた2013年度の取り組みについてお聞かせください。**

## Answer: 03

売上高、営業利益ともに過去最高の更新と、事業基盤の拡充に取り組んでいきます。

2013年度は、連結の売上高、営業利益ともに過去最高の更新を目指すとともに、杏林製薬(株)単体では初めてとなる売上高1,000億円に挑戦していきます。

医薬品事業では、既存主力製品の普及の最大化と2012年9月に承認申請した気管支喘息治療剤「フルティフォーム(KRP-108)」の承認・上市に向けた対応を着実に行うことが最重要課題です。また、2013年6月に新発売しました潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」を早期に市場に浸透させ、主力品に育成しなければなりません。当社が推進する特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)を中心とする定期訪問医師に営業資源を集中化するフランチャイズ・カスタマー(FC)戦略を引き続き推進し、医師、医療機関との関係を今以上に強化していきます。

研究開発活動については、何より長期ビジョン「HOPE100−ステージ3−(2020〜2023年度)」で世界に導出できるオリジナル新薬を創製するため、創薬テーマをさらに充実させることが喫緊の課題であると認識しています。新たに構築したR&D体制の下で研究開発プロセスの改善を進め、新薬開発のスピードアップを図り、特定領域における魅力ある製品パイプラインの構築を推進していきます。また、2015年度に運用開始(予定)する新研究開発拠点の建設に近々、着手します。国内の研究開発機能を1ヵ所に集約することにより、人・組織・システムにおける効率化と連携の強化を図ります。

生産に関しては、生産体制の全体最適化を進め、さらなるローコスト・オペレーションによる生産効率の向上を図っていきます。

後発品事業では、国による使用促進策等の追い風の中、共同開発や受託生産などのアライアンス戦略の推進に引き続き注力します。

ヘルスケア事業では、哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」の育成の継続、スキンケア事業の再成長路線の構築と黒字化、環境衛生事業における環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の早期普及を図るなど、事業の拡大を目指してまいります。

## Q4

**人材マネジメントの考え方についてお聞かせください。**

## Answer: 04

人および組織の活性化が「企業」を発展させる原動力。そのために人材マネジメント(人事諸制度)を再構築し、社員にとって「働きがいNO.1企業」の具現化を目指します。

社員一人ひとりの知識や技能、人間性の集積である「人的資本」の充実こそが企業成長の原動力にほかなりません。長期ビジョンに掲げる目指す企業像を達成するためには、キョーリン製薬グループの全社員が自覚と主体性を持ち、絶えず自らの能力を磨き高めるとともに、コミュニケーションを活発にして、結束して業務に取り組むことが重要だと考えています。

当社グループにおいては、企業と社員の関係を「長期にわたる互恵的な協力・共生関係」と考え、人材マネジメント(人事諸制度)の再構築に取り組み、社員が「働きがい」「働きやすさ」を感じ、働く意識(やる気)が旺盛になるよう環境を整えていきます。

## Q5

**社外取締役を迎え、どのようなことに期待されていますか。**

## Answer: 05

これまでの経験、見識を生かして企業価値向上に貢献していただきたいと思います。

2013年6月に社外取締役2名を選任いただきました。経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るとともに、社外取締役の広い知識と経験、専門的見地からの意見を積極的に取り込むことで、さらなる経営の効率化、企業価値向上に取り組みます。

## Q6

**株主還元方針についての考えをお聞かせください。**

## Answer: 06

配当性向30%を目処とし、「成長のための投資」「事業継続のための投資」「株主還元」を、バランスよく実施します。

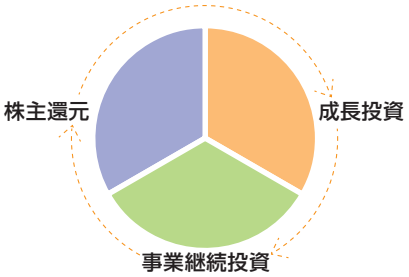
当社グループは「成長のための投資」「事業継続のための投資」「株主還元」をバランスよく実施し、経営基盤強化を図っていきます。

成長のための投資では、中核となる医薬品事業における研究開発パイプラインの充実に向けた導入品獲得等を推進します。そして、ヘルスケア事業では将来を見据えて戦略的かつ積極的な投資を行うことを考えています。株主還元では、連結配当性向30%を目処に、配当を実施します。

2012年度の配当金につきましては、連結配当性向30.1%、年間配当金として前年度比5円の増配となる1株当たり50円としました。2013年度は、1株当たり年間52円（中間期10円）、連結配当性向30.6%を予定しています。

### 成果目標

**投資と株主還元のバランス**




| 2015年度（目標） | （億円） |
|---|---|
| 連結売上高 | 1,400 |
| 医薬品事業 | 1,200 |
| ヘルスケア事業* | 200 |
| 連結営業利益 | 200 |

* スキンケアおよび一般用医薬品他

## Q7

**ステークホルダーの皆様に向けて、メッセージをお願いします。**

## Answer: 07

中核子会社である杏林製薬（株）は創業90周年を迎えましたが、100周年に向けたこれからの10年間、目指す企業像である長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて決意を新たにし、成果を積み上げていく所存です。

また、当社グループは今後も積極的な情報開示に努め、業績や長期ビジョン「HOPE100」の進捗を、ステークホルダーの皆様にお伝えしてまいります。

皆様方には、当社グループに対するさらなるご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 価値創造の源泉

## グループ一丸となって、組織として成果を上げる

**キョーリン製薬グループの連携**

**キョーリン製薬グループ**

### キョーリン リメディオ株式会社

http://www.kyorin-rmd.co.jp/

グループの後発（ジェネリック）医薬品事業を担う子会社であり、「信頼されるジェネリック医薬品企業」を目指しています。患者さんの健康への貢献そして医療費抑制、社会保障制度の維持という社会的に重要な役割を認識し、品質保証・安定供給・情報提供を徹底し、特色のある後発医薬品の提供に取り組んでいます。

### ドクタープログラム株式会社

http://www.drprogram.co.jp/

新規美容成分の研究や成分浸透技術の開発で培ってきた、製薬発想のナノカプセル技術を製品づくりの基盤としています。今後もお客様の声に真摯に耳を傾け、これまで市場に存在しなかった新しい製品を創造し、女性の美と健康に貢献していきます。

### キョーリン メディカルサプライ株式会社

http://www.kyorin-ms.co.jp/

医薬品に関連する広告の企画制作等を中心に、多岐にわたるコミュニケーションビジネスを手掛けるとともに、将来、キョーリン製薬グループの核となる事業の一つとして育成を図る環境衛生事業に積極的に取り組み、健康生活応援企業を目指すグループの一員として社会に貢献していきます。

### 杏林製薬株式会社

http://www.kyorin-pharm.co.jp/

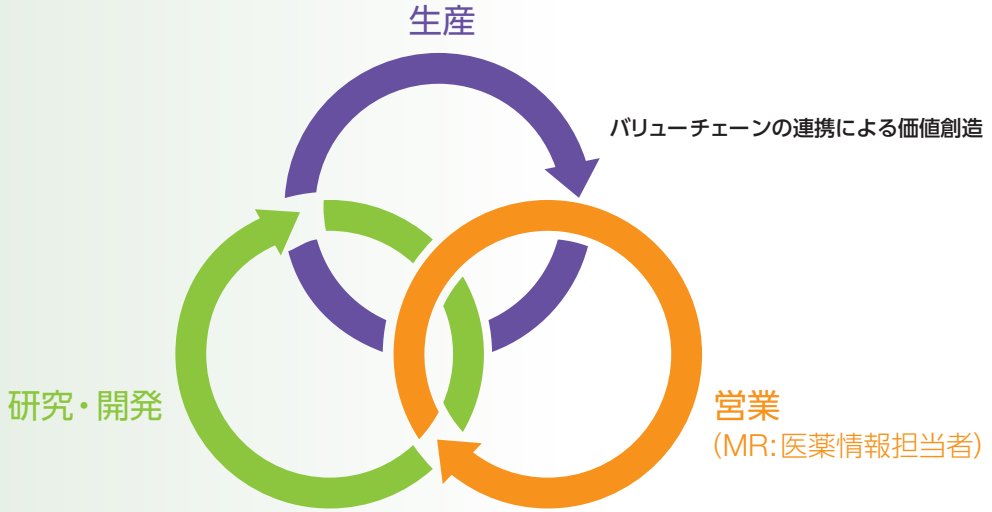
「患者さんや医療に携わる方々から信頼され、社会に存在意義を認められる医薬品メーカー」を目指す企業像として掲げ、特定領域（呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科）におけるプレゼンスの向上とグローバルな自社新薬の創製に取り組んでいます。

### キョーリン製薬グループ工場株式会社

http://www.kyorin-fc.co.jp/

医薬品製造会社として2012年10月より事業を開始しました。MSD（株）より取得した医薬品生産に関する資産をもとに、医療用医薬品の製造に関する事業を行っています。今後は、環境変化に対して、様々な施策を柔軟かつ迅速に実行できる体制を構築し、高品質な製品の安定的提供、製造技術の向上とコスト効率化を目指します。

**キョーリン製薬グループは持続的な成長を目指し、魅力的かつ高品質な製品・サービスを創出し、提供することでユーザーの方々に期待され信頼される企業になりたいと考えています。そのためにはグループの全社員が結束し、さらに能力を高め、組織としての「力」を高めることが必要です。研究開発、生産、営業が連携してお互いが成長し、より良い製品とサービスを生み出していきます。**



# 価値を創造する組織力の向上 —バリューチェーンにおける連携の強化

**丸林　和弘**
杏林製薬（株）
取締役　生産本部長

**小室　正勝**
杏林製薬（株）
常務取締役　研究開発本部長
キョーリン製薬ホールディングス（株）
取締役

**杉林　正英**
杏林製薬（株）
上席執行役員　営業本部長

**中期経営計画「HOPE100−ステージ1−」の折り返しとなる2013年度は、医薬品事業を中核としつつヘルスケア事業の多核化を推進する中で、特に社員一人ひとりを「人財」と捉えて個の力を高め、人と組織の活力化に真摯に取り組みます。それは、「HOPE100−ステージ1−」の達成に向けたゆるぎない道程であり、優れた製品の研究開発・生産・販売を通して世界中の人々の健康に貢献するという企業理念の具現に結びつくものと考えています。**

## 研究・開発

P.12

「グローバルな自社新薬の創製と導入品開発、育薬研究により魅力的かつ高品質な製品の提供を目指す」。そのためには、創薬テーマの充実、新薬開発のスピードアップ、プロジェクトの選択と集中が重要になります。オープンなコミュニケーションによる情報の共有など、スモール・スケール・メリットを最大限に発揮して、質の高い創薬研究・開発研究・臨床研究に取組んでいます。

## 生産

P.14

「高品質の製品を安定的に、低コストでつくる」。そのためには、製造プロセスにおける品質保証体制の確立が極めて重要になります。キョーリングループのすべての工場では、GMP（Good Manufacturing Practice）の高度化を図るとともに、本社直結の品質保証体制により、高品質な製品の安定供給を実現しています。

## 営業（MR：医薬情報担当者）

P.16

「特定領域におけるプレゼンスを向上させる」。そのためには、医師や医療機関のニーズを的確に把握し、迅速に対応できる組織づくりが重要になります。杏林製薬（株）では、特定領域に活動を重点化するFC（フランチャイズ・カスタマー）戦略を推進することで、効率的・効果的な営業活動を展開しています。

## 研究・開発

世界の人々に提供できる新薬の創出が、新薬メーカーとしての当社グループの存在意義を高め、持続成長に結びつきます。この認識に基づき、当社グループは、呼吸器・泌尿器・耳鼻科領域において、より効率的かつ効果的な創薬研究活動を展開しています。

# スモール・スケール・メリットの強みを生かす

**私たちの研究開発の強みは、スモール・スケール・メリットにあります。特に、創薬における部署間の連携の良さに加え、「探索研究」「開発研究」「臨床開発」と幅広く対応できる多様な研究技術を持つ人材を有することは、創薬活動における競争力の源となっており、多角的な知見をベースとした研究開発活動を可能としています。コアテクノロジーとして、炎症、免疫、感染症などの基礎研究領域において創薬の探索技術を有し、それらを効率的に化合物の合成展開に役立てているほか、低分子化合物の最適化における研究でも高い評価を受けており、その特徴を生かした低分子創薬による革新的新薬の創製に挑戦しています。**

## 時間軸を大切にした創薬・開発・育薬の研究開発プロセス

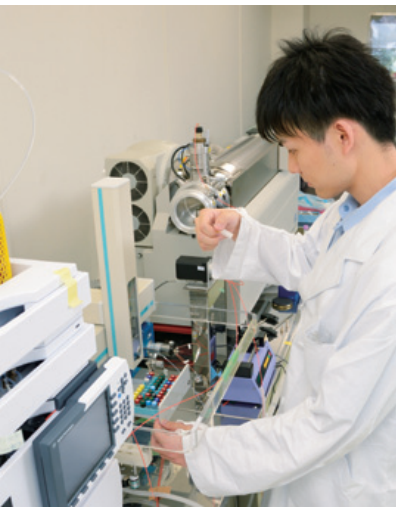
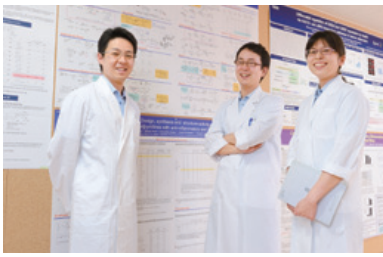
当社グループは、時間軸を大切にした研究開発を推進しています。ステージ1においては製品価値を最大化する「育薬」、ステージ1・ステージ2での上市を目指す「開発」、さらにステージ3およびそれ以降に世界の人々の健康に貢献する新薬を創製するための「創薬」と、研究開発プロセスにおける役割毎に時間軸を設け、今（今年度）何に取り組まなければならないかについて強く意識して活動しています。

「創薬」の方向性としては、ステージ3における革新的新薬（今までの治療体系を変える薬）の創製をキーコンセプトに、低分子創薬に注力しています。

「開発」においては、開発のスピードアップと質の向上を目指し、上市後の製品像を強く意識した開発方針の策定を意味する「開発プロデュース」に基づき、製品を服用する患者さんを想定し、そのニーズにきめ細かく応える製品づくりに取り組んでいます。

「育薬」においては、質の高い育薬研究を実施することによりエビデンスを構築して診察ガイドラインや治療指針へ反映させ、製品価値の最大化を推進しています。

このように、各部の機能と目標を明確にすると共に、連携を強化することで医療関係者や患者さんにより信頼される研究開発を目指しています。

## 自らを磨き、高める努力をバックアップする体制

創薬・開発研究においては、時代を問わず、先端知識・技術を持ち続けることが重要であり、社員自らが考え、自らを磨き高める努力が必要です。研究開発本部では、人材マネジメントの方針策定と継続教育に組織的に取り組んでいます。

基礎教育は、人事部による教育、R&D教育、事業所教育（事業所の計画的教育）、職場教育（業務OJT教育）を階層別に実施しています。R&D教育については、入社後3ヵ年教育を実施することで、社会人としての基礎力と薬づくりの大枠を学び、さらにワイガヤ研修等を行うことで思考の多様化、新しい価値の創造力を身につけられるよう推進しています。管理者は、次代の人材（財）育成を含め、現状分析と戦略的な組織改革についての研修を行っています。

個人のキャリアパス策定と自立的キャリア開発の支援としては、国内外大学・研究機関への研究・業務派遣を実施しています。

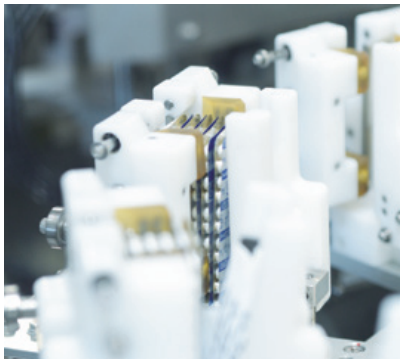
社員メッセージ

### 医療関係者や患者さんを常に念頭に置いた研究開発の推進

私たちは、常に発売後、患者さんに服用していただくことを想定した研究開発活動に取り組んでいます。テーマ設定においては市場性、事業性、実現性を十分に検討し、ドラッグデザインにおいては「有効性」「安全性」「利便性」を追求しています。誰もが積極的にテーマ設定などのアクションを起こせるオープンな環境の下、医療関係者や患者さんを理解し、世界に通用する画期的新薬の創製を目指します。

## 生産

最先端の製造機器やフロービン生産システム（原料・中間製品の自動搬送による生産システム）を導入して生産効率や信頼性の向上を図ることにより、「働く人に優しい、生産性の高い工場づくり」を推進しています。さらに、「すばらしいこの地球を我々の行動で守ります」というスローガンの下、GMP（Good Manufacturing Practice）の高度化、フレキシブルな生産体制、働く人に優しい、高い生産効率、高い信頼性をコンセプトとする工場を目指しています。



# 「品質確保」「安定供給」「コスト低減」を実現する組織

**私たちは日々、「品質確保」「安定供給」「コスト低減」を追求しています。高品質の製品を安定的かつ低コストで提供する生産体制を維持・向上させ、さらに工場所在地はもとより、私たちの製品が供給される世界各地で信頼される生産部門を目指しています。その実現のために元気で活気ある職場を維持し、高い想像力を発揮できる組織を構築していきます。**

### ハード・ソフトの両面を強化し、価値の向上へ

生産部門では、「グループ生産体制の全体最適化」「グローバルな新生産体制の展開」「ローコスト・オペレーション」「人材育成」の4つの課題に戦略的に取り組んでいます。

まず、グループ生産体制の全体最適化としては、事業計画に応じてグループ内の各工場で効率的な生産活動を図っています。次に、グローバルな新生産体制の展開としては、将来を見据えたグローバル基準に対応し、生産体制の強化を図ります。2012年10月には、グループにキョーリン製薬グループ工場（株）が加わり、従来にも増して高品質な製品の安定的な提供を継続するとともに、製造技術の向上とコストの低減、グローバルな展開を目指しています。ローコスト・オペレーションにおいては、視覚化によるコスト低減と品質向上を同時に実現することを目指していきます。人材育成については、社員一人ひとりが常に向上心を持ち、高い創造力を発揮する組織づくりを推進しています。この4つの課題の取り組みを通して、ハード・ソフト両面から生産体制の強化を進め、キョーリン製薬グループの価値向上を図っていきます。

## 会社に貢献できる人財を育てる

「品質確保」「安定供給」「コスト低減」の3本柱は、生産部門の使命であり、常に掲げる目標です。この目標の達成には、社員一人ひとりが役割を確実に果たすことが不可欠です。そして、その役割を果たすためには、必要な人材を獲得し、会社に貢献できる人財に育てていくことが重要です。生産部門では、人材育成の取り組みとして本人の希望を考慮したキャリアマップを作成する一方、後継者マップを設定して人材育成の長期計画を立案しています。人事異動ではこのキャリアマップと後継者マップを活用して適材適所の人材配置をしています。

生産現場においては、必要な知識、技術、業務を習得するための研修プログラム、OJTおよび技術者マップを作成し、上司と部下で目標を共有し、職場で「見える化」することでやる気の喚起につなげています。今後は、人材育成とやる気の向上を図る「マイスター制度（仮称）」の導入も検討しています。

社員メッセージ

### 国内トップレベルの「魅せる」生産工場と生産体制

社員一人ひとりが「生産性を飛躍的に向上させる」という意識を持ち、真摯に取り組む組織を構築しています。
グループにおける生産体制の中心的拠点である能代工場では、原料・中間製品を自動的に搬送するフロービン生産システムなど、自動化による高効率な設備を備えています。またQDC*と環境対応により、国内トップクラスの高い創造力が発揮できる活気ある生産拠点として、「品質確保」「安定供給」「コスト低減」を追求していきます。

* QDC…Q=品質（Quality）、D=納期（Delivery）、C=原価（Cost）

営業

MRは、医薬品の適正使用を促すための情報を提供・収集・伝達する役割を担っており、医療関係者等にとって「薬物治療のパートナー」です。杏林製薬では、「呼吸器科」「耳鼻科」「泌尿器科」を中心とする定期訪問医師に行動を重点化するFC戦略に基づき、MR活動を展開しています。

# 「医師から信頼されるMR」を目指す

**特定領域に行動を重点化することで、顧客との強固な信頼関係の構築を目指しています。そのために、社員一人ひとりのスキルアップを図り、組織力を高めていきます。各MRは、目標として掲げる「医師から信頼される杏林のMR像」への成長に日々取り組み、当社の営業体制の特徴である一定のエリアを複数のMRで担当する「チーム制」によりきめ細かなMR活動を推進し、過去最高の売上高と営業利益に挑戦します。**

## 環境変化、医療関係者のニーズに応え、着実な成果を上げる

2012年度は「主力製品（キプレス、ムコダイン、ウリトス、ペンタサ）の普及の最大化への挑戦」をテーマとして掲げ、積極的な営業活動に取り組み、過去最高の売上高を達成しました。

着実な成果を上げるためには、「特定領域（呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科）におけるプレゼンスの向上」に引き続き取り組んでいくことが重要です。全MRに導入したタブレットPCを活用するなど、常に専門医への新しい情報提供・収集活動を強化する方策を検討しています。また、営業部門が開催する専門医を対象とした研究会・講演会に研究部門の参加を促進することで、全社一丸となって専門医との関係性の向上に取り組んでいます。

また、「やる気ナンバーワン企業としての営業体制および人材育成の構築」を確立していきます。当社の営業体制の特徴である「チーム制」は、MR個々の能力を向上させると共に、医療関係者のニーズを的確に把握し、迅速な対応を組織的に実現しています。これらの取り組みをさらに進化させ、チームで目標を達成する喜びをMR同士が感じ合える風土づくりを促進します。

さらに、既存品では、製品別・剤形別にきめ細かく計画を立案し、目標の完全達成を目指すとともに、新製品である「フルティフォーム（KRP-108）」の承

認・上市に向けた着実な対応および「ペンタサ坐剤1g」の早期の市場浸透を進めていきます。これらの取り組みを着実に実行することが、2013年度にキョーリン製薬グループが目指す、過去最高の売上高、営業利益の達成に結びつくものと確信しています。

## MRと管理者、双方の資質を伸ばす

営業本部では2013年度、人財育成のテーマとして、MR総合力アップと管理者マネジメント力の向上の二つを掲げています。MR総合力アップでは、「医師から信頼されるMR」の育成を目標としており、新入社員のMR導入教育において、製品知識や周辺知識の学習のみならず、医療に携わる人としてのマナー・態度の修得・ものの考え方の醸成を推進しています。また、2年目で学ぶプレゼンテーションスキル研修、3年目で学ぶコミュニケーションスキル研修を通し、医療従事者のニーズを捉え、ニーズに応えることができるMRの育成に取り組んでいます。管理者マネジメント力の向上では、新任所長研修を通して部下育成に欠かすことができないコミュニケーション力とコーチングスキルを学習し、MRとの月5回の終日同行を実践することで所長としての資質を磨いています。

社員メッセージ

### 「医師が相談できるMR」を組織として育成

当社グループでは、薬剤による治療の一端を担う製薬企業として、医師に有用な情報を提供でき、医師の抱える問題を解決できるMRの育成を目指しています。医師との信頼関係の構築には、ニーズに応じた情報提供を適切に行うことが重要です。当社グループの営業の特徴は、FC戦略に基づき、特定領域に営業活動を重点化しているため、重点領域の医師との関係度が高いことです。また「チーム制」の導入により、個々の経験・能力を共有し、お互いを高め合う風土があり、目標に向かい一丸となって日々活動しています。私たちは、医師の薬剤による治療の内容を理解した上で様々な提案ができるMRへと成長し、医療の発展や人々の健康に貢献していきます。

# 呼吸器領域のプレゼンス

杏林製薬(株)は呼吸器領域をFC戦略における重点領域の一つに位置づけ、現在、呼吸器領域の患者さんの疾病の治療にさらに貢献すべく「フルティフォーム(KRP-108)」「KRP-AB1102」「KRP-AB1102F」の3品を導入し開発を進めています。これらの有望なパイプラインを導入できたのは、導出元の企業が数ある製薬会社の中で、私たちの呼吸器領域における取り組みを評価し、魅力的に感じていただけたからだと考えています。
私たちは、これまで「キプレス」「ムコダイン」を通じて築いてきた医療関係者との関係を大切にし、新薬の開発に真摯に取り組み、少しでも早く患者さんのもとへ新製品をお届けできるように全社を挙げて挑戦していきます。

## 部門長メッセージ

### 喘息・COPDの疾患治療に貢献する新薬をスピーディーに届ける

臨床開発センター長
**梶野 国雄**

呼吸器領域は、当社グループが製品開発に取り組んでいる最も重要な領域の一つです。現在は、喘息・COPD領域において「フルティフォーム(KRP-108)」「KRP-AB1102」「KRP-AB1102F」の新薬開発を推進しています。これら新薬を少しでも早く医療現場、患者さんに届けることが、私たちの使命であると考えています。

そのために、発売後の製品の姿を想定した開発を行うこと、また、効果的な開発戦略を構築した上で臨床試験等を進めることが必要です。呼吸器領域における医療現場の情報、人脈などを活用し、よりスピーディーな開発が推進できるよう常に創意工夫に努めたことから、治験(臨床試験)に参加していただいた医療現場の先生方より高い評価とともに、これら新薬を待望される声をいただいています。また開発を通じて新たに構築された情報・チャネルをR&D、営業・医療現場へフィードバックすることにより、呼吸器領域での高いプレゼンスの確立を目指します。

### 情熱を持ち、チーム一体となって「フルティフォーム(KRP-108)」の上市を目指す

医薬マーケティング部長
**加治 貴章**

鳴り続ける電話の音、議論を交わす人の声…。私たちの現場は日々活気に満ち溢れています。「フルティフォーム(KRP-108)」を早く臨床の場へ届けたいという情熱が、新発売の準備チーム全員を突き動かしています。「フルティフォーム(KRP-108)」は強い抗炎症作用と早い効果発現を特徴とし、さらに確実かつ簡便な吸入が可能な薬剤です。現状の喘息治療におけるニーズに応えることができ、新たな治療オプションを提供できるものと信じています。

私たちはこの待望の新薬を発売するにあたり、いかにこの薬剤の特徴を医師、医療スタッフの方々や患者さんに理解していただくかを念頭に置き準備を進めています。この様な取り組みが信頼を生み、そして呼吸器領域において当社グループがより価値ある企業として認められるものと信じ、これからも挑戦し続けます。

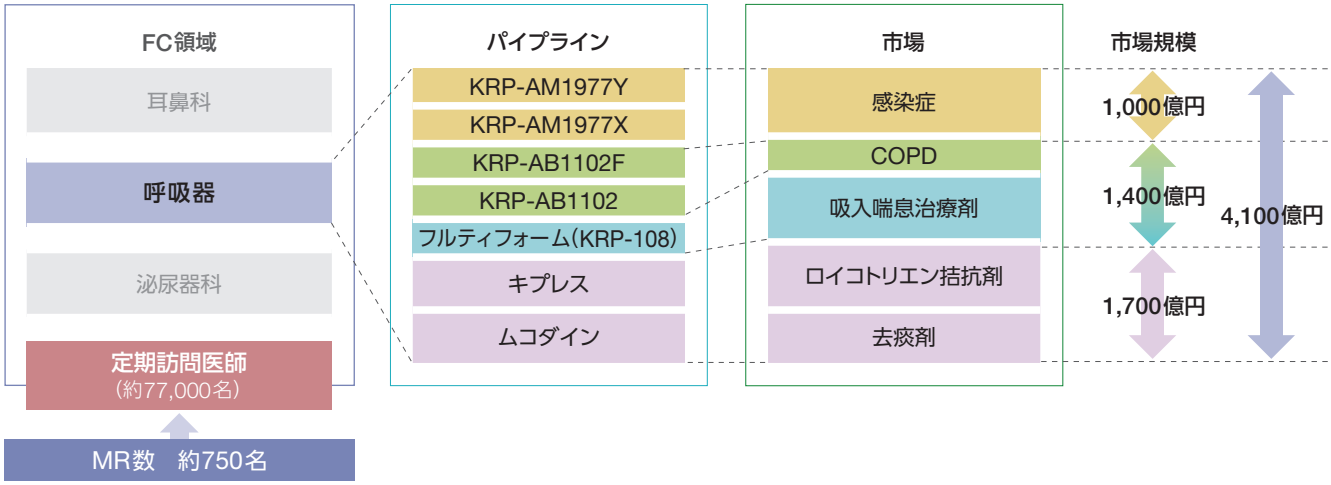
### 臨床現場の声に耳を傾け、薬を育てる文化をつくる

医薬マーケティング部部長
**融 太郎**

呼吸器領域は医療関係者とのコンタクト回数が最も多いFC領域です。「ムコダイン」は、日常診療で頻繁に遭遇する疾患に幅広い適応を持つこと、乳幼児から高齢者まで患者さんに合わせた服用しやすい剤形をラインアップしていることが評価されています。今日では呼吸器領域において日本で最も処方数の多い薬となりました。

喘息とアレルギー性鼻炎に適応を有する「キプレス」は、国内外の各種診療ガイドラインにも推奨薬の一つとして掲載されています。質の高い豊富なエビデンスをもとに、個々の患者さんに合わせた治療を提案すること等により評価され、当社売上の4割を占めるNo.1製品となっています。当社には臨床現場の声に耳を傾け、発売後にも様々な試験に取り組み、薬を一歩ずつ育てていく文化が根づいています。今後も患者さんの目線で情報収集・提供を行いライフサイクルマネジメントの手を緩めることなく活動してまいります。それが信頼の礎となると考えています。

**呼吸器領域における関連製品とその市場状況**



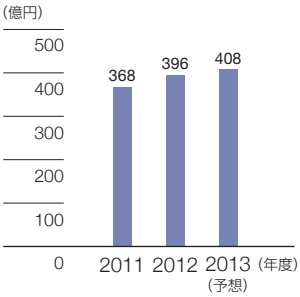
# 主要製品

## 医薬品事業

### キプレス

ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
キプレス錠5mg／キプレス錠10mg
ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息治療剤
キプレス細粒4mg／キプレスチュアブル錠5mg

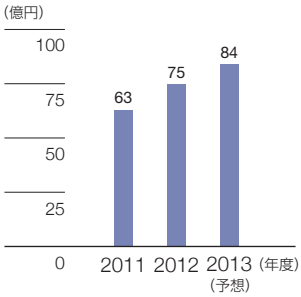
売上高




### ウリトス

過活動膀胱治療剤
ウリトス錠0.1mg
ウリトスOD錠0.1mg

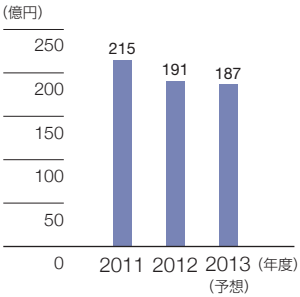
売上高




### ムコダイン

気道粘液調整・粘膜正常化剤
ムコダイン錠250mg／ムコダイン錠500mg
ムコダイン細粒50%／ムコダインシロップ5%
ムコダインDS 50%

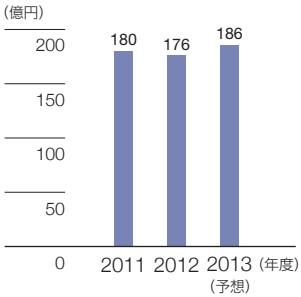
売上高




### ペンタサ

潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
ペンタサ錠250mg／ペンタサ錠500mg
潰瘍性大腸炎治療剤
ペンタサ注腸1g／ペンタサ坐剤1g

売上高




### ケタス

ホスホジエステラーゼ阻害剤
気管支喘息・脳血管障害改善剤
ケタスカプセル10mg

### ラピッドテスタ

インフルエンザウイルスキット
ラピッドテスタカラーFULスティック

## ヘルスケア事業

### ミルトン

殺菌消毒剤「ミルトン」は1963年の発売以来、赤ちゃんの健やかな成長を願うママを応援。哺乳びん殺菌消毒剤のトップブランドとして産婦人科の医師や看護師の方々からも広く支持されています。

### ルビスタ

2012年に新発売した環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」は、医療機関等で感染予防および病原微生物の蔓延防止を目的とした衛生管理に使用されています。

## キョーリンメディカルサプライ(株)―杏林製薬(株)の連携による環境衛生事業展開

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア領域における新規事業の創出を掲げ、ヘルスケア事業での多核化を通じ、医薬品事業のリスク補完とグループの持続成長を目指しています。このような方針の下、現在、環境感染の制御を通じて医療ニーズ・健康に貢献すべく、環境衛生事業に取り組んでおり、当事業の新製品として環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」を2012年7月に発売しました。

本製品を導入したキョーリンメディカルサプライ(株)と、医療分野での実績とノウハウを有する杏林製薬(株)が共同で医療機関、介護施設、公共施設等向けに販売をしています。これまでの主要製品である「ミルトン」の販売強化、さらに環境衛生事業における製品ラインナップの強化に取り組み、グループ内の連携により普及の拡大を図っていきます。

# アライアンス

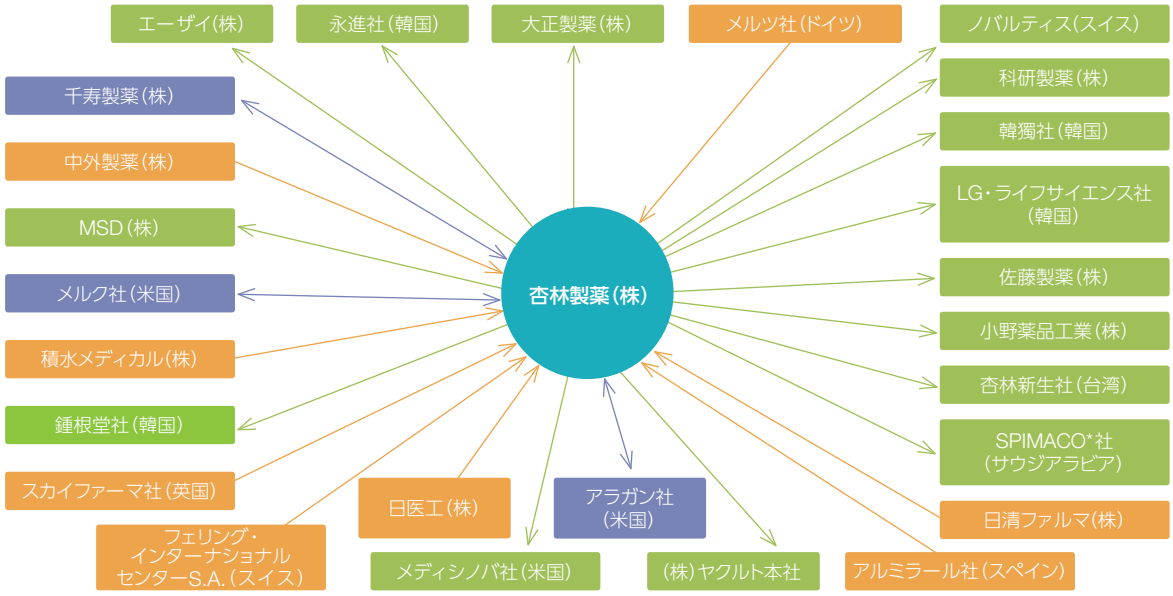
**特定領域におけるパイプライン充実に向けたアライアンス**

当社グループの中核子会社である杏林製薬(株)は、特定領域におけるプレゼンスの向上を確立することを目標として掲げ、開発パイプラインの充実に取り組んでいます。世界的に有望な新薬が枯渇する中、競合他社の存在もあり、導入品の獲得は非常に厳しい状況にあります。このような状況の下、FC領域(呼吸器科、泌尿器科、耳鼻科)において2008年度からの5年間で、「フルティフォーム(KRP-108)(喘息治療吸入剤)」「KRP-209(耳鳴治療剤)」「KRP-AB1102(慢性閉塞性肺疾患治療剤)」「KRP-AB1102F(慢性閉塞性肺疾患治療剤)」の4品目を導入しました。これは、すべての導出元企業が当社グループに魅力を感じ、信頼できるパートナーであると確信したからこそ得られた成果であり、当社グループが展開するFC戦略が、着実に国内外の医薬品業界に浸透してきたことの証でもあると考えます。

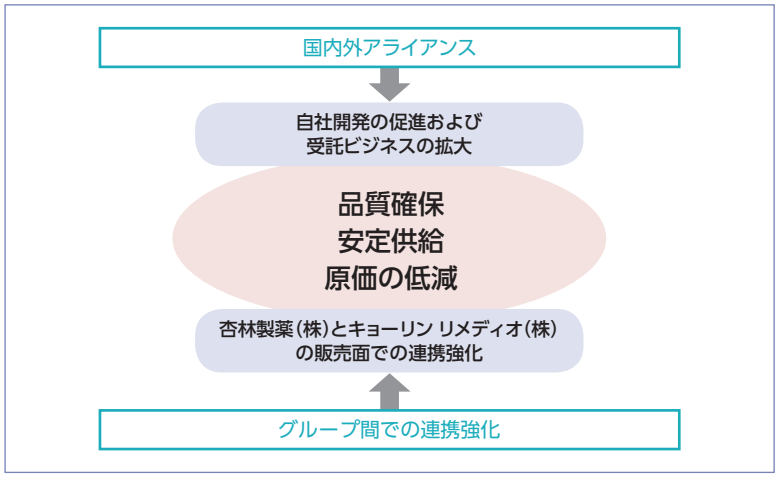
今後も信頼され、存在意義を認められる企業として魅力的なパイプラインの構築に向け、全社員が一丸となって力を結集し取り組みます。

**国内外製薬企業とのアライアンスの促進**

杏林製薬(株)は自社創薬とともに、外部との積極的なコラボレーションにより、医薬品メーカーとしての最重要課題である研究開発パイプラインの充実・強化を推進しています。




* SPIMACO: Saudi Pharmaceutical Industries & Medical Appliances Corporationの略




**特色ある後発医薬品事業の推進**

グループ間の連携強化と国内外のアライアンスを推進し、後発医薬品事業における品質確保、安定供給、原価の低減に取り組みます。特に、さらなる売上原価率の低減は重要な課題と位置づけています。今後も自社開発に加え、共同開発や受託生産の拡大にも積極的に取り組み、特徴、競争力のある後発医薬品事業の強化を図ります。

# 開発品の動向 (2013年7月30日現在)

## PhⅢ～申請中

| 製品名・開発コード | 薬効 | 起源 | 特徴 | 備考 | | 開発段階（フェーズⅠ／フェーズⅡ／フェーズⅢ／申請） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **KRP-108（吸入剤）** | 気管支喘息治療剤 | イギリス<br>スカイファーマ社 | 吸入ステロイド(ICS：フルチカゾン)及び長時間作用性$\beta_2$刺激薬(LABA：ホルモテロール)の配合剤で利便性やコンプライアンスに優れる | ●スカイファーマ社とライセンス契約(08年4月)<br>●PhⅢ終了(12年3月) | 国内 | 12年9月 |
| **KRP-AB1102（吸入剤）** | 慢性閉塞性肺疾患 | スペイン<br>アルミラール社 | アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム)<br>①全身性副作用が少ない<br>②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善<br>③最大効果発現までの時間が短い<br>※吸入器：Genuairを使用 | ●アルミラール社とライセンス契約(11年2月) | 国内 | 12年9月 |
| **キプレス（チュアブル錠、細粒）** | 気管支喘息治療剤 | アメリカ<br>メルク社 | アレルギー性鼻炎(小児用) | ●新効能・効果<br>●MSD(株)との共同開発 | 国内 | 13年4月 |

【参考情報】海外の状況
■KRP-108　米国：スカイファーマ社(09年3月申請)、欧州：ムンディファーマ社(12年9月上市)
■KRP-AB1102　欧州：アルミラール社(12年9月上市)、米国：フォレスト社(12年12月上市)

## POCプロジェクト(PhⅠ～PhⅡ)

| 製品名・開発コード | 薬効 | 起源 | 特徴 | 備考 | | 開発段階（フェーズⅠ／フェーズⅡ／フェーズⅢ／申請） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **KRP-209** | 耳鳴 | ドイツ<br>メルツ社 | NMDA受容体拮抗作用およびニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される | ●メルツ社とライセンス契約(09年11月) | 国内 | 11年8月 |
| **KRP-AB1102F（吸入剤）** | 慢性閉塞性肺疾患 | スペイン<br>アルミラール社 | 長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA：アクリジニウム)と長時間作動型$\beta$作動薬(LABA：ホルモテロール)の配合剤 | ●アルミラール社とライセンス契約(11年2月) | 国内 | 12年5月 |
| **KRP-203** | 自己免疫疾患、臓器移植、IBD | 自社 | S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される | ●ノバルティスとライセンス契約(06年2月)<br>●IDBにおける新たなライセンス契約(10年11月) | 国内 | 13年3月 |
| **KRP-AM1977X（経口剤）** | ニューキノロン系合成抗菌剤 | 自社 | ①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力<br>②優れた体内動態(経口吸収、組織移行)<br>③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待 | | 国内 | 11年8月 |
| **KRP-AM1977Y（注射剤）** | ニューキノロン系合成抗菌剤 | 自社 | | | 国内 | 12年7月 |

【参考情報】海外の状況
■KRP-209　メルツ社　PhⅢ
■KRP-AB1102F　欧州：アルミラール社　PhⅢ、米国：フォレスト社　PhⅢ

## 導出品の状況

| 製品名・開発コード | 導出先・共同研究先 | 薬効 | 起源 | 備考 | | 開発段階（フェーズⅠ／フェーズⅡ／フェーズⅢ／申請） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **KRP-203** | スイス<br>ノバルティス | 自己免疫疾患、臓器移植、IBD | 自社 | ●S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される<br>●ノバルティスとライセンス契約(06年2月)、IDBにおける新たなライセンス契約(10年11月) | 海外 | POC 10年12月 |

## 経営の基本方針

**当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」を企業理念としています。この理念の具現化に向けて、長期ビジョン「HOPE100」を策定し、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、健全な健康生活応援企業を目指します。**

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は「継続的な株主価値の向上」を経営の最重要事項としています。その実現のためには社会から信頼を得られる経営の環境整備が必要であり、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な課題と位置づけ、意思決定の迅速化、経営の妥当性の監督機能強化、企業倫理に根ざした企業活動、企業活動の透明性の確保などに取り組んでいます。株主ならびに投資家の皆様に対しましては経営の透明性、フェア・ディスクロージャーの観点から、適切かつ迅速な情報開示を実施するよう努めています。ホームページにおきましても株主・投資家情報のページを設けて、決算データ・決算説明会資料・有価証券報告書・ニュースリリースなどの掲載により、当社の発信情報が、いつでも、誰にでもご覧いただける体制を整えています。今後もさらに積極的な情報開示を進め、ステークホルダーの皆様との充分なコミュニケーションを図っていきます。

当社は監査役設置会社であり、監査役会は、監査・監督機能を充分発揮して、取締役会の意思決定に係る透明性の確保に努めるとともに、各監査役は期初に監査役会が策定した監査方針および監査計画に従い監査を行っています。また、取締役会や経営会議など重要会議への出席、重要な決裁書類の資料の閲覧、各部・事業所・グループ会社の調査など多面的な監査を行っています。

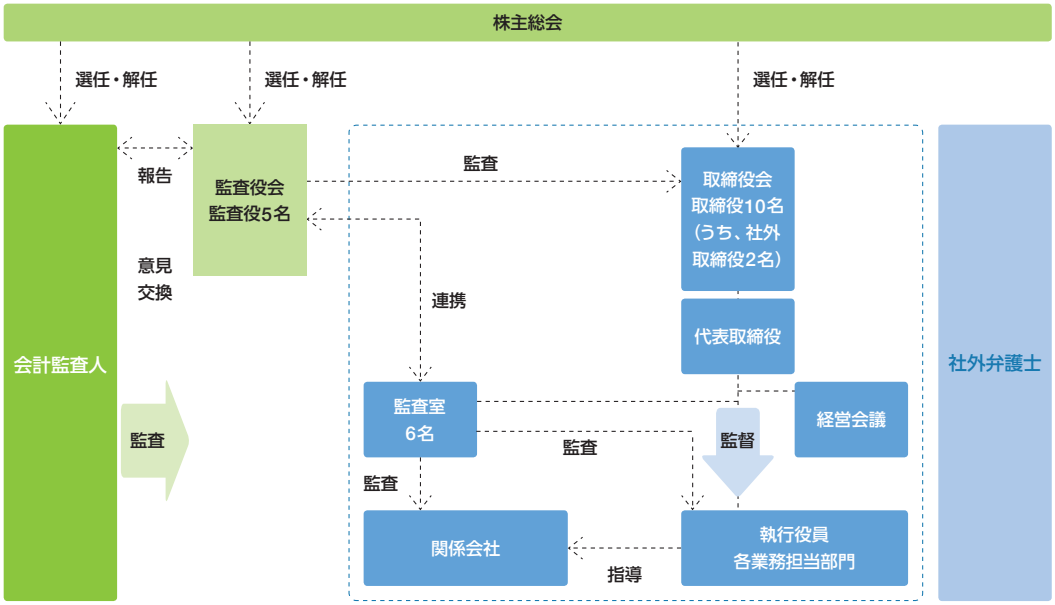
当社は、企業の社会的責任（CSR）を自覚しキョーリン製薬グループ各社にコンプライアンス推進・リスク管理担当者を置くとともに「コンプライアンス委員会」と「リスク管理委員会」がグループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理の対応を統括・推進する体制を構築しており、グループ会社ごとのガイドラインを策定した上で、グループ全体の相談・通報体制を整えています。なお関係会社の管理に当たっては「関係会社管理規程」を制定し、その経営などは自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う指導体制とし、また社内監査部門は「内部監査規程」に基づき関連会社の監査を実施し、監査結果に応じて統括部署が指示、勧告または適切な指導を行っています。

## 会社機関の内容

### 1. 会社機関の内容

当社は経営の意思決定および業務遂行の監督機能を担う取締役（10名）と業務執行機能を担う執行役員（4名）の役割を明確に区分するために執行役員制度を導入し

**コーポレート・ガバナンスの基本構造と経営執行組織**（2013年6月25日現在）



ています。取締役会は月1回の開催を原則とし、業務執行に関する重要事項の決定、取締役の職務の執行を監督する場として、充分な議論と時宜を得た意思決定を図っています。業務執行に関しては、社長および取締役からなる経営会議を設置し、当社およびグループ会社の業務執行に関する重要事項を協議しています。さらに2013年6月開催の定時株主総会において、新たに2名の社外取締役を選任し、その独自性および豊富な経験、高度な専門性を生かして経営の透明性と監督機能の強化を図っています。

また、当社は監査役制度を採用しています。監査役会は常勤監査役2名、非常勤監査役（社外）3名の計5名で構成し、監査・監督機能の発揮による透明性の高い意思決定のできる仕組みを整備しています。

## 2. 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備状況

内部統制システムにつきましては、当社の定めた基本方針に沿った体制を構築しています。

- 担当役員を委員長とし、社内監査室長も委員として参加する「コンプライアンス委員会」を設置しています。役職員には、コンプライアンス研修等により徹底指導し、社内違反行為については、企業倫理ホットラインを設置しています。また、財務報告の適正を確保するために社内規程を制定し、当社グループの財務報告に係る内部統制の有効性と信頼性を確保できる体制を構築しています。
- 担当役員を委員長とし、グループ総務人事統轄部を統括部署とした「リスク管理委員会」を設置し、リスクの軽減・未然防止体制の構築および運用を行います。コンプライアンス、環境、災害等に係るリスクについては「リスク管理規程」および「企業倫理コンプライアンス規程」を制定し、速やかに対応する体制をとります。有事においては社長を本部長とした「有事対策本部」を設置し、危機管理にあたります。
  詳細に関しましては、http://www.kyorin-gr.co.jp/company/governance.shtmlをご参照ください。

## 3. 監査体制について

**①内部監査の状況**

内部監査につきましては、通常の業務部門とは独立した社長直轄の監査室（6名）が年度ごとに作成する「監査計画」に基づき、当社およびグループ会社の経営活動における法令遵守状況と内部統制の有効性・効率性について定期的に検討・評価しています。内部監査の過程で確認された問題点、改善点などは直接社長へ報告するとともに改善のための提言を行っています。

また、財務報告に係る内部統制の評価部署として、予め定めた評価範囲を対象にその統制の整備状況・運用状況の有効性を評価し、社長へ報告を行っています。

**②監査役監査の状況**

各監査役は、期初に監査役会が策定した監査方針および監査計画に従い監査を行っています。また、取締役会や経営会議など重要会議への出席、重要な決裁書類・資料の閲覧、各部・事業所・グループ会社の調査など多面的な監査を行っています。

役職員が法令・定款に違反する行為などを知った場合は、直ちに監査役に通報する体制をとっており、役職員との緊密な連携と監査に対する理解を深めることにより、監査役監査の効率化への環境整備に努めています。また、必要に応じて監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その人事は取締役と監査役が調整し独立性に配慮することとしています。

なお、常勤監査役 宮下征佑は杏林製薬（株）の取締役経理部長を経験しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。

**③社外取締役および社外監査役**

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名です。

社外取締役 尾崎仙次については、B−Rサーティワンアイスクリーム（株）の取締役会長として経営についての豊富な経験を有していることから、適任であると総合的に判断しました。また、社外取締役としての業務を遂行する上で当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのある事由はなく、独立性が高いものと認識しています。なお、同氏が取締役会長であるB−Rサーティワンアイスクリーム（株）と当社との間には、購入、販売などの取引関係はありません。

社外取締役 鹿内徳行については、弁護士として企業法務にも精通し、慶應義塾大学理事等の要職を務めるなど、その高度な専門性と豊富な経験から、適任であると総合的に判断しました。また、社外取締役としての業務を遂行する上で、当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのある事由はなく、独立性が高いものと認識しています。

社外監査役3名についてはいずれも経営陣や特定の利害関係者の利害に偏ることのない中立的立場で企業法務、財務・会計等に関する相当程度の知見を有しており、専門的見地と広い見識・経験を生かした監査機能の充実、強化が図られています。

なお、社外監査役 小幡雅二は弁護士として企業法務に精通しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針として明確に定めたものはありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しています。

**④会計監査の状況**

当社は、会社法および金融商品取引法の規定に基づき、

新日本有限責任監査法人により監査を受けています。

会計監査人である新日本有限責任監査法人には、決算期における会計監査のほか、適宜アドバイスをいただいています。

なお、監査業務を執行した公認会計士等は次のとおりです。

(公認会計士の氏名等)
指定有限責任社員 業務執行社員 網本　重之
指定有限責任社員 業務執行社員 加藤　秀満

監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士12名、会計士補など10名です。

監査役会は監査室および会計監査人と定期的かつ綿密な情報・意見交換を行うことにより、監査体制の充実を図っています。

## 4. 会社と会社の社外取締役および社外監査役の人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係の概要

該当事項はありません。

## 5. 役員報酬の内容

当年度の取締役および監査役に対する報酬の額は、取締役6名に対し170百万円(社外取締役を除く)、監査役2名に対し30百万円(社外監査役を除く)で総額200百万円です。

取締役の使用人分給与相当額はありません。

社外役員に対する報酬の額は、3名に対し16百万円です。

## 6. 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨、定款に定めています。

## 7. 取締役および監査役の選任の決議要件

当社は、取締役および監査役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、定款に定めています。

## 8. 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

**①自己株式の取得**

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨、定款に定めています。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引などにより自己株式を取得することを目的とするものです。

**②剰余金の配当などの決定機関**

当社は、剰余金の配当など会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令の別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議によって定める旨、定款に定めています。これは、機動的な資本政策を行うことを目的とするものです。

## 9. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めています。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

## 社外取締役メッセージ

社外取締役
**尾崎　仙次**

私は永年、食品のビジネスを通じ消費者と身近に接するとともに、外国資本との合弁会社の設立や経営に携わってきました。その経験を生かし、今回キョーリン製薬ホールディングス(株)の企業価値の向上に貢献できる機会を与えられましたことを大変光栄に思います。

製薬業界は、グローバル化の進展、薬価改定を含む医療制度の改革、後発医薬品の成長など大きく経営環境が変化しています。長期ビジョン「HOPE100」の遂行によって医薬品事業を中核とするヘルスケア事業の多核化を目指す当社の社外取締役として、第三者的な独立した新たな発想や理念をもって、取締役会の透明度が高くリスクが管理された意思決定に参画することによって、一般株主をはじめとするステークホルダーの皆様の期待と要求に応えるとともに、企業の永続的発展につながるよう尽力し、必要な提言を行っていきます。今後とも株主の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

社外取締役
**鹿内　徳行**

世界の健康を支える製造業に、社外取締役として携われることを大変光栄に感じております。

私は弁護士として多くの企業、または消費者の方と接する中で、企業とりわけ健康に重要な役割を持つ製薬企業は、社会から信頼を得て持続的に発展することが肝要であると考えております。

社外取締役の観点から、この目的に沿うよう透明性の高い経営に貢献していく所存であります。

今後とも株主の皆様にはご支援をいただきたく、よろしくお願いを申し上げます。

# 役員紹介 (2013年6月25日現在)

左から、小室 正勝、鹿内 徳行、穂川 稔、荻原 豊、山下 正弘、金井 覚、宮下 三朝、荻原 茂、松本 臣春、尾崎 仙次

代表取締役社長
**山下　正弘**

取締役
**宮下　三朝**
杏林製薬株式会社
代表取締役社長

専務取締役
**穂川　稔**
グループ経営企画統轄部長（兼）
グループ経理財務統轄部担当

常務取締役
**松本　臣春**
グループ総務人事統轄部長（兼）
グループ法務統轄部・
グループコンプライアンス統轄部担当

取締役
**荻原　豊**
社長室長（兼）
コーポレートコミュニケーション統轄部・
グループ情報システム統轄部担当

取締役
**小室　正勝**
グループ知的財産統轄部担当

取締役
**金井　覚**
キョーリン メディカルサプライ株式会社
代表取締役社長

取締役
**荻原　茂**
キョーリン リメディオ株式会社
代表取締役社長

取締役（社外）
**尾崎　仙次**

取締役（社外）
**鹿内　徳行**

---

常勤監査役
宮下　征佑
阿部　茂

監査役
小幡　雅二
本田　淳治
廣田　保之

執行役員
上席執行役員
石崎　孝義
伊藤　洋

執行役員
舛井　正範
吉田　与志也

# CSRの取り組み

**キョーリン製薬グループのCSRの原点は「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念にあります。キョーリン製薬グループは、持続的に成長していくために、医療関係者をはじめ顧客、株主、投資家、従業員、取引先、地域社会との信頼関係の構築・維持を大切に考え、信頼ある製品・サービスを提供するとともに、企業としての社会的責任を果たすべく環境・労働安全衛生、社会貢献活動等に継続して取り組んでいます。**

## 企業の社会的責任

キョーリン製薬グループは、企業の社会的責任の重要性を認識し、以下のような考え方で企業倫理の高揚と、コンプライアンス体制を整えるべく取り組みを行っています。

## コンプライアンスに対する取り組み

### 基本方針

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。

キョーリン製薬グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の下、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観を持って行動します。

### 取り組み

高い倫理観を持って企業行動を展開するために、「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」と「コンプライアンス・ガイドライン」を2010年8月に現状に即して改訂しました。さらに、月1回コンプライアンス委員会を開催し、コンプライアンスを遵守する体制を構築しています。

1.「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」は、企業理念に基づき企業倫理およびコンプライアンスの具現化に向けて制定されたもので、当社の企業行動の原点となるものです。

2.「コンプライアンス・ガイドライン」は、「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」を補完するものであり、健全かつ正当な事業活動を行うための基準を明確化したものです。

3.企業倫理およびコンプライアンス体制を総括管理するため、2006年3月より「コンプライアンス委員会」を設置しています。また、各事業会社にコンプライアンス推進担当者を置くことにより、企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図っています。

### 教育研修

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内研修を行っています。

1.コンプライアンス担当部署が中心となって、全社的な階層別研修において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育研修を実施するとともに、当社の役員および従業員に対する啓発活動を展開しています。

2.各部門で実施する職能教育などにおいて、企業倫理およびコンプライアンスに関する内容を盛り込み、従業員の理解・浸透と業務への反映を図っています。

3.毎年11月をコンプライアンス強化月間とし、その浸透に努めています。

## 環境への継続的な取り組み

キョーリン製薬グループの主たる子会社である杏林製薬(株)では主に以下の活動を継続して実施しています。なお、詳細につきましては、杏林製薬(株)のホームページに掲載している「環境労働安全衛生報告書」をご覧ください。

### 1. 地球温暖化防止

- コ・ジェネシステム導入、ボイラー小型化などによる燃料使用量削減
- 空調温度管理(夏28℃・冬21℃)等による使用電力削減
- エコカー・ハイブリッドカー導入による燃費向上と排気ガス削減

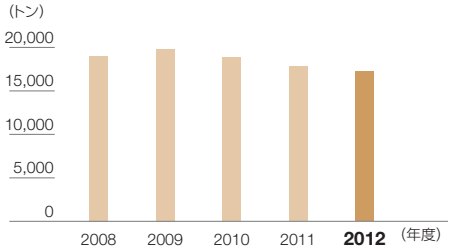
### 2. 廃棄物発生量の削減

- 排出量削減とリサイクル促進、最終埋め立て量ゼロへの挑戦、マイナスカーボンプリンティングシステムの導入

### 3. 化学物質の管理

- PRTR法対象物質管理と見直し(使用量削減と代替の検討)

**工場・研究所の$CO_2$排出量の推移**




* 2008年度は環境報告書のデータ
* 2009～2012年度は定期報告書のデータ

**4. 大気汚染の防止**

- ボイラーおよび発電機からのばい煙、NOx、SOx排出量測定・管理

**5. 水質汚濁の防止**

- 排水処理棟・一次処理装置による処理、pH・BOD・SS管理

**6. 森林破壊の防止**

- 用紙リサイクル、再生紙利用、業務のペーパーレス化推進

**7. 騒音の削減**

- 騒音測定管理と対応

**8. 悪臭発生の防止**

- ドラフトチャンバー（排気粉塵等吸収排出装置）設置、スクラバーによる洗浄脱臭等

## 労働安全衛生に関する取り組み

杏林製薬（株）では、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）の認証を、2004年に全社で取得、2005年には全社でISO14001、OHSAS18001の仕組みの統合を行いました。

また、子会社のキョーリン リメディオ（株）のリメディオセンターも2008年にISO14001、2009年にOHSAS18001の認証を取得しました。

**1. 度数率・強度率について**

労災事故防止の取り組みにより、災害発生の頻度と災害の重さを示す度数率・強度率とも、業界水準を大きく下回っています。また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

**2. 車両事故件数について**

2012年度には各支店ごとに前年度に対して事故件数低減を目指したものの、トータルで212件と前年度を僅かに上回りました。増加する車両事故を減少に転じさせるため、2013年度は、さらにハード面、ソフト面から様々な施策を通じて事故防止に取り組んでいます。

## リスク管理に対する取り組み

当社では、リスクの発生予防に係る管理体制の整備、発生したリスクへ対応するため、「リスク管理委員会」を設置しています。併せて、各事業会社にリスク管理推進担当者を配置し、リスク管理に対する意識の向上と浸透を図っています。

## 社会貢献活動

**1. 地域社会とのコミュニケーション**

- **観桜会**

杏林製薬（株）創薬研究所、開発研究所では、樹齢40年を超える桜を見る会を毎年実施しており、2012年度も多数の方が訪れました。これを機会に当社の環境・労働安全衛生の取り組みをご説明させていただきました。

- **納涼会**

杏林製薬（株）開発研究所および各工場では、毎年の納涼会に周辺住民の皆様をお招きし、企業活動への理解を深めていただく機会として好評をいただいています。

- **地域清掃活動**

杏林製薬（株）岡谷工場では、諏訪湖畔の一定区間を受け持ち、美化活動を行う「諏訪湖アダプトプログラム（里親制度）」を実施しています。当活動も10年以上が経過し、表彰を受けました。また、社員一斉参加による湖畔公園の清掃も実施しました。

杏林製薬（株）能代工場では、郷土の防風林として、また憩いの場所として市民に親しまれている「風の松原」の清掃ボランティア活動に参加しています。

本社では、年2回の千代田区の清掃ボランティアに、有志従業員が自主的に参加しています。

- **スポーツイベントの支援**

当社グループは元Jリーガーなどサッカー選手が子供たちにサッカーを指導するスポーツイベント「しもつけサッカーセミナー」に協賛しています。

**2.社員の自発的な社会貢献・健康貢献活動への取り組み**

当社グループでは、社員の自発的な社会貢献・健康貢献活動として「キョーリンスマイルプログラム」を推奨しており、社員が献血活動、募金活動などの活動を行っています。

2012年度においては、当社グループは社員の募金額110,484円をユニセフへ寄付しました。また、使用済み切手をグループ全体で2.8kg回収し、「ジョイセフ（家族計画国際協力財団）」へ寄付しました。寄付した使用済み切手は、「ホワイトリボン運動」と呼ばれる世界中のお母さんと赤ちゃんの命を守る活動資金に活用されます。

**3. 東日本大震災復興支援**

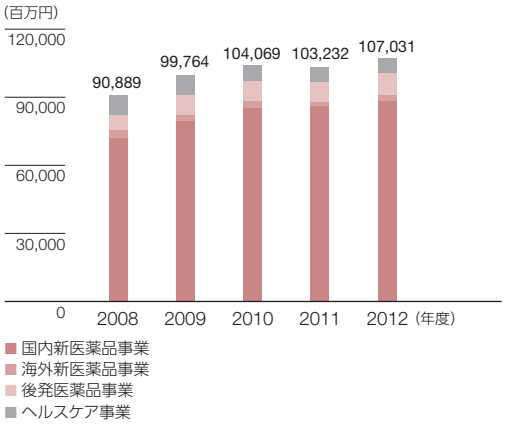
- **ひまわりプロジェクト**

杏林製薬（株）の創薬研究所、開発研究所、仙台支店では、ひまわりの苗を育てて東日本大震災の被災地に届ける「ひまわりプロジェクト」に2011年より参加しています。

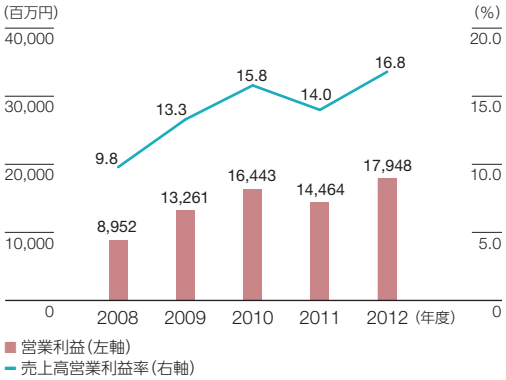
被災地の一日も早い復興を願い、多くの皆様に笑顔の花が咲くように、今後も継続していきます。

# 財務分析

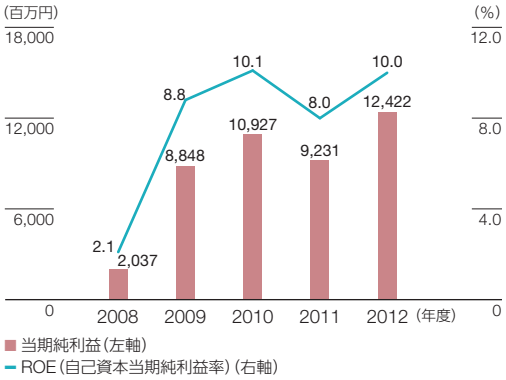
## 売上高




## 営業利益および売上高営業利益率




## 当期純利益およびROE(自己資本当期純利益率)




## 事業の概要

キョーリン製薬グループは、医薬品の研究開発、製造および販売を主たる事業とする杏林製薬(株)と後発医薬品の製造および販売を主たる事業とするキョーリン リメディオ(株)、スキンケア商品の開発と販売を行うドクタープログラム(株)、販売促進・広告物の企画制作、環境衛生事業などを行うキョーリン メディカルサプライ(株)、他社製品の受託生産を主な事業とするキョーリン製薬グループ工場(株)にて構成されています。持株会社であるキョーリン製薬ホールディングス(株)(以下、当社)は、グループ統轄会社としてグループ全体の経営戦略機能を担い、経営資源の効率的な配分や運用を行っています。

## 国内の市場動向

2012年度における国内経済は、為替の円高傾向などを背景に内需・外需ともに低迷する厳しい状況が継続しましたが、年度末にかけて政権交代や金融政策に伴う円安傾向が加速し、それを受けた株価上昇など、緩やかですが回復の兆しがみられました。

このような状況下、当社グループの中核事業が属する国内医薬品業界では、2012年4月に実施された薬価基準の改定(業界平均:6.0%、杏林製薬(株):6%台)等、薬剤費の抑制を目的とした諸施策により経営環境は厳しさを増しました。また、ヘルスケア事業では、消費低迷の影響などから縮小傾向となった市場において企業間の競争は激化しました。

## 連結業績

### 売上高

2012年度の売上高は、ヘルスケア事業の売上が減少したものの、医薬品事業における売上が新薬事業、後発品事業ともに前年度を上回る実績で推移したことから増収となり、1,070億31百万円(前年度比3.7%増)と過去最高となりました。

国内新医薬品は、2012年4月に実施された薬価改定の影響はありましたが、既存事業の売上が前年度を上回るとともに2012年10月1日より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場(株)の売上が寄与し、売上高は882億86百万円(前年度比2.7%増)となりました。主要製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が伸長した一方で、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」は前年度を下回りました。

海外新医薬品は、広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米国アラガン社)」に関連する収入は前年度に対し微減となりましたが、杏林製薬(株)がガルデルマS.A.(本社:スイス)と2012年10月に締結した医療用外用抗真菌剤「ペキロンクリーム」に係わる資産譲渡契約に基づき、同剤について2013年2月1日に資産譲渡を行い契約金を取得したことで、売上高は24億00百万円(前年度比19.1%増)となりました。

後発医薬品は、2012年度より導入された後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への販売が伸長し、他社からの受託生産による売上も増加したため、売上高は100億95百万円(前年度比16.6%増)となりました。

一般用医薬品他は、主要製品である哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」の売上が前年度を上回る実績で推移しました。また、その他製品の売上増加等により、売上高は43億 79百万円(前年度比9.8%増)となりました。

この結果、医薬品事業の売上高は1,051億62百万円(前年度比4.5%増)となりました。

ヘルスケア事業は、消費低迷の影響等により縮小傾向にあった市場の中で企業間競争が激化し、ナノカプセル技術を応用したスキンケア製品を取り扱うドクタープログラム(株)の売上が前年度を下回る実績となり、売上高は18億69百万円(前年度比27.5%減)となりました。

### 売上原価率、販売費及び一般管理費、営業利益

売上原価率は、薬価改定の影響や他社製品の受託生産を主な事業とするキョーリン製薬グループ工場(株)を連結子会社化した影響等により、37.5%と前年度比1.7ポイント上昇しましたが、売上総利益は増収により、前年度比5億91百万円増となりました。

販売費及び一般管理費は、研究開発費が110億59百万円（前年度比20.8%減）と減少したことなどにより、489億49百万円（前年度比5.6%減）となりました。これらの結果、営業利益は179億48百万円（前年度比24.1%増）と過去最高益となりました。売上高営業利益率は2.8ポイント上昇し16.8%となりました。

### 要約連結損益計算書

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 | 増減額 | 増減率 (%) |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 103,232 | 107,031 | 3,798 | 3.7 |
| 売上原価 | 36,926 | 40,133 | 3,207 | 8.7 |
| 売上総利益 | 66,306 | 66,897 | 591 | 0.9 |
| 販売費及び一般管理費 | 51,842 | 48,949 | (2,892) | (5.6) |
| （うち研究開発費） | 13,964 | 11,059 | (2,904) | (20.8) |
| 営業利益 | 14,464 | 17,948 | 3,484 | 24.1 |
| 営業外収益 | 879 | 790 | (88) | (10.1) |
| 営業外費用 | 67 | 62 | (5) | (8.5) |
| 税金等調整前当期純利益 | 15,262 | 18,603 | 3,340 | 21.9 |
| 当期純利益 | 9,231 | 12,422 | 3,190 | 34.6 |

### 要約連結包括利益計算書

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 | 増減額 | 増減率 (%) |
|---|---|---|---|---|
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 9,231 | 12,422 | 3,191 | 34.6 |
| その他の包括利益合計 | 640 | 1,843 | 1,203 | 188.0 |
| 包括利益 | 9,871 | 14,265 | 4,394 | 44.5 |

### 当期純利益および1株当たり当期純利益

当期純利益は、124億22百万円（前年度比34.6%増）となりました。1株当たり当期純利益は166円25銭（前年度比42円71銭増）となりました。

## 資産、負債および純資産

当年度末の資産は、受取手形及び売掛金、有価証券の増加、原材料及び貯蔵品の減少等により流動資産が84億14百万円増加し、有形固定資産の増加、投資有価証券、繰延税金資産の減少等により固定資産が8億80百万円増加したため、前年度末と比較して92億95百万円増加し、1,549億68百万円となりました。

負債は、未払法人税等の増加、支払手形及び買掛金、短期借入金、退職給付引当金の減少等により、前年度末と比較して 16億3百万円減少し、258億68百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前年度末と比較して108億98百万円増加し、1,290億99百万円となりました。

この結果、自己資本比率は83.3%となり、前年度末より2.2ポイント増加しました。

### ROE（自己資本当期純利益率）

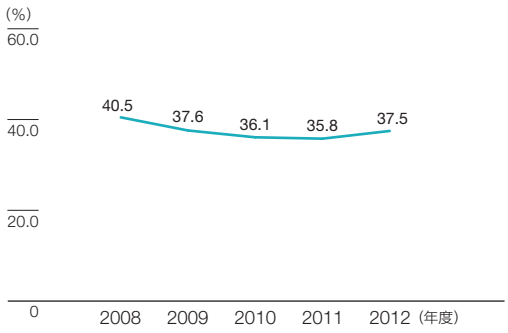
持続成長を目指す当社グループは、売上高および営業利益を成果目標としています。その達成には収益性の向上、ROEを高めていきます。2012年度は、前年度比2.0ポイント上昇し、10.0%となりました。

### 要約連結貸借対照表

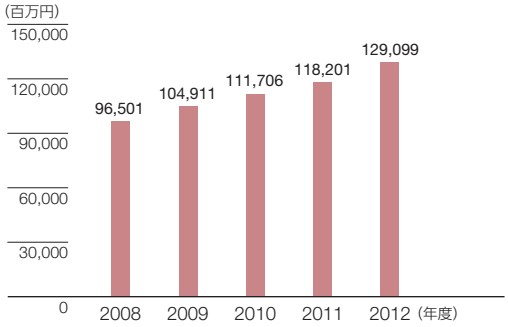
百万円

| | 2011年度 | 2012年度 | 増減額 | 増減率 (%) |
|---|---|---|---|---|
| 流動資産 | 99,850 | 108,265 | 8,414 | 8.4 |
| 固定資産 | 45,822 | 46,702 | 880 | 1.9 |
| 資産合計 | 145,673 | 154,968 | 9,295 | 6.4 |
| 流動負債 | 23,385 | 22,897 | (487) | (2.1) |
| 固定負債 | 4,086 | 2,970 | (1,115) | (27.3) |
| 負債合計 | 27,471 | 25,868 | (1,603) | (5.8) |
| 株主資本 | 117,931 | 126,985 | 9,054 | 7.7 |
| その他の包括利益累計額合計 | 269 | 2,113 | 1,843 | 685.5 |
| 純資産合計 | 118,201 | 129,099 | 10,898 | 9.2 |
| 負債純資産合計 | 145,673 | 154,968 | 9,295 | 6.4 |

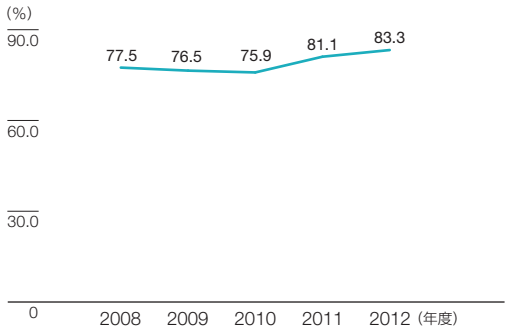
### 売上原価率



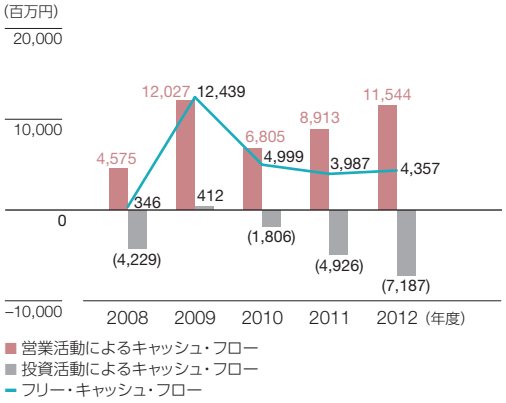

### 純資産




### 自己資本比率



### 営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フローおよびフリー・キャッシュ・フロー




## キャッシュ・フロー

2012年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、115億44百万円の収入であり、これは主に税金等調整前当期純利益186億3百万円、減価償却費27億38百万円、売上債権の増加14億80百万円、退職給付引当金の減少10億10百万円、仕入債務の減少4億86百万円、法人税等の支払額46億23百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、71億87百万円の支出で、これは主に有価証券の取得による支出59億95百万円、有形固定資産の取得による支出59億72百万円、投資有価証券の取得による支出35億1百万円、有価証券の売却及び償還による収入24億2百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入68億53百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、51億32百万円の支出で、これは主に短期借入金の減少16億75百万円、配当金の支払33億57百万円によるものです。

この結果、当年度末の現金及び現金同等物の期末残高は、前年度末と比較して6億67百万円減少し、225億43百万円となりました。

なお、次年度のキャッシュ・フローの見通しにつきましては次の通りです。投資活動によるキャッシュ・フローでは、工場設備の拡充等、固定資産取得による支出約45億円を予定しています。財務活動によるキャッシュ・フローでは、主に期末配当として1株当たり40円00銭、中間配当として1株当たり10円00銭を予定しており、合計約37億円の配当金額となる見込みです。

### 要約連結キャッシュ・フロー計算書

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 | 増減額 | 増減率 (%) |
|---|---|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 8,913 | 11,544 | 2,631 | 29.5 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | (4,926) | (7,187) | (2,261) | (45.9) |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | (7,412) | (5,132) | 2,280 | 30.8 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 23,210 | 22,543 | (667) | (2.9) |

## 2013年度見通し

国内医薬品業界では、薬価制度改革に向けた議論が継続的に進められており、引き続き厳しい市場環境が予想されます。また、ヘルスケア事業におきましても、景気の先行きは不透明な状況です。

このような環境下ではありますが、当社グループは中期経営計画「HOPE100−ステージ1−(2010〜2015年度)」の達成に真摯に取り組んでいきます。4年目となる2013年度は、同計画の事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデルへの取り組み」「ヘルスケア新規事業の拡充と育成」を積極的に推進し、持続成長とステークホルダーの皆様からの信頼・評価の向上に努めます。

売上面では、新薬事業における主要製品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が引き続き伸長する見通しであり、さらに新製品による売上増加も見込まれます。また、後発品事業の売上拡大や2012年10月より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場(株)の売上が通年計上される影響から過去最高額の更新を見込んでいます。

利益面では、増収により販売費及び一般管理費(うち研究開発費121億円、前年度比10億円増)の増加を吸収し、過去最高益となる見込みです。

### 2013年度業績見通し

百万円

| | 2012年度 | 2013年度 | 増減率 (%) |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 107,031 | 113,000 | 5.6 |
| 営業利益 | 17,948 | 18,600 | 3.6 |
| 当期純利益 | 12,422 | 12,700 | 2.2 |

## 事業等のリスク

**現在、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下のようなものがあります。当社グループでは、これら事業等のリスクに関し、組織的・体系的に対処することとしておりますが、影響を及ぼすリスクや不確実性はこれらに限定されるものではありません。**

**1. 当社グループの事業に係わる法的規制**
当社グループの事業は、日本国内における薬事法、医療保険制度、薬価制度などの規制および海外における各国の各種関連規制の影響を受けます。また、医薬品の開発、製造、輸入、流通等の各段階において様々な承認・許可制度等が設けられています。今後、予測できない大規模な医療行政の方針転換が行われた場合、当社グループの営業成績、財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

**2. 医薬品の研究開発に係わる活動**
医療用医薬品の開発には、多額の研究開発投資と長い期間が必要な上、新規性の高い化合物を発見し医薬品として上市できる確率は決して高くありません。現在、杏林製薬(株)では、数品目の医療用医薬品の臨床試験を実施中ですが、期待する臨床効果が確認できない場合や予測できない副作用の発現等により研究開発を中止する可能性があります。

**3. 他社との競合激化**
医薬品業界は、技術革新など進歩が急速に進む環境下にあり、より有用性の高い医薬品の開発や同種の効能を有する医薬品の上市が当社グループの主要製品の売上動向に影響を及ぼす可能性があります。

**4. 医療制度改革の影響**
日本国内におきましては、医療用医薬品の薬価改定を含む医療制度改革が実施されております。当社グループでは、予測可能な範囲でその影響を業績予想に織り込んでおりますが、予想可能な範囲を超えた薬価改定や医療保険制度の改定が実施された場合、営業成績等に影響を及ぼす可能性があります。

**5. 副作用の発現**
新医薬品の安全性に関する情報は、限られた被験者を対象に実施した臨床試験から得られたものであり、必ずしも副作用の全てを把握することはできません。市販後、汎用された中でそれまでに報告されなかった未知の副作用によりその医薬品の使用方法が制限されることや、場合によっては発売中止になる可能性があります。

**6. 製造の停滞・遅延**
技術的・規制上の問題もしくは自然災害・火災などの要因により生産活動の停滞・遅滞もしくは操業停止などが起こった場合、当社の営業成績等に影響を及ぼす可能性があります。

**7. 製品回収等**
異物の混入等により当社グループの製品に欠陥が認められ製品の回収などの事態が発生した場合、営業成績等に悪影響を及ぼします。

**8. 知的財産の保護**
当社グループが国内外において知的財産を適切に保護できない場合、第三者が当社の技術を利用して当社グループ製品の市場ないしは関連する市場において悪影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループの事業活動が他社製品の特許等、知的財産に抵触した場合、事業の中止・係争の可能性があります。

**9. 訴訟リスク**
当社グループの事業活動において、特許、製造物責任(PL法)、独占禁止法、環境保全、労務関連などの事柄において訴訟を提起される可能性があります。

**10. 為替レートの変動**
当社グループは、海外との輸出入を行っており、為替レートの変動は当社の売上高等に影響を与えます。

**11. 他社との提携解消**
当社グループでは、外部資源の有効活用を目的としてアライアンス戦略を推進し、国内外の製薬企業等と販売委託・共同販売・共同研究等の提携を行っております。今後、何らかの事情によりこれらの提携関係を解消することになった場合、予定している営業成績等に影響を及ぼす可能性があります。

**12. ITセキュリティ及び情報管理**
当社グループでは、業務上、ITシステムを多数利用していることから、システムの不備やコンピューターウイルス等の外部要因により、業務が阻害される可能性があります。また情報等の外部への流出により信用を失うことで業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

# 連結貸借対照表

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2012年および2013年3月31日現在

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 |
|---|---|---|
| **資産の部** | | |
| **流動資産** | | |
| 現金及び預金 | 21,615 | **21,370** |
| 受取手形及び売掛金 | 45,067 | **46,555** |
| 有価証券 | 7,372 | **11,667** |
| 商品及び製品 | 11,016 | **11,405** |
| 仕掛品 | 632 | **837** |
| 原材料及び貯蔵品 | 9,089 | **7,694** |
| 繰延税金資産 | 2,340 | **2,773** |
| その他 | 2,774 | **6,013** |
| 貸倒引当金 | (58) | **(53)** |
| 流動資産合計 | 99,850 | **108,265** |
| **固定資産** | | |
| **有形固定資産** | | |
| 建物及び構築物 | 28,222 | **30,306** |
| 減価償却累計額 | (18,888) | **(19,790)** |
| 建物及び構築物(純額) | 9,333 | **10,515** |
| 機械装置及び運搬具 | 15,827 | **16,668** |
| 減価償却累計額 | (13,331) | **(13,897)** |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 2,495 | **2,770** |
| 土地 | 1,619 | **2,466** |
| リース資産 | 149 | **332** |
| 減価償却累計額 | (65) | **(78)** |
| リース資産(純額) | 83 | **253** |
| 建設仮勘定 | 39 | **1,071** |
| その他 | 6,690 | **7,071** |
| 減価償却累計額 | (5,719) | **(5,940)** |
| その他(純額) | 971 | **1,131** |
| 有形固定資産合計 | 14,544 | **18,209** |
| **無形固定資産** | | |
| のれん | 192 | **64** |
| 商標権 | 11 | **7** |
| その他 | 642 | **844** |
| 無形固定資産合計 | 846 | **916** |
| **投資その他の資産** | | |
| 投資有価証券 | 26,040 | **24,552** |
| 長期貸付金 | 24 | **19** |
| 繰延税金資産 | 3,144 | **1,438** |
| その他 | 1,642 | **1,690** |
| 貸倒引当金 | (421) | **(123)** |
| 投資その他の資産合計 | 30,431 | **27,577** |
| 固定資産合計 | 45,822 | **46,702** |
| **資産合計** | 145,673 | **154,968** |

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 |
|---|---|---|
| **負債の部** | | |
| **流動負債** | | |
| 支払手形及び買掛金 | 9,043 | **8,556** |
| 短期借入金 | 3,159 | **1,523** |
| リース債務 | 39 | **81** |
| 未払法人税等 | 2,111 | **3,356** |
| 賞与引当金 | 3,110 | **3,327** |
| 返品調整引当金 | 52 | **43** |
| ポイント引当金 | 65 | **45** |
| その他 | 5,802 | **5,962** |
| 流動負債合計 | 23,385 | **22,897** |
| **固定負債** | | |
| 長期借入金 | 316 | **251** |
| リース債務 | 45 | **184** |
| 退職給付引当金 | 2,949 | **1,938** |
| 役員退職慰労引当金 | 32 | **33** |
| その他 | 743 | **562** |
| 固定負債合計 | 4,086 | **2,970** |
| **負債合計** | 27,471 | **25,868** |
| **純資産の部** | | |
| **株主資本** | | |
| 資本金 | 700 | **700** |
| 資本剰余金 | 4,752 | **4,752** |
| 利益剰余金 | 112,797 | **121,856** |
| 自己株式 | (318) | **(323)** |
| 株主資本合計 | 117,931 | **126,985** |
| **その他の包括利益累計額** | | |
| その他有価証券評価差額金 | 537 | **2,293** |
| 為替換算調整勘定 | (267) | **(180)** |
| その他の包括利益累計額合計 | 269 | **2,113** |
| **純資産合計** | 118,201 | **129,099** |
| **負債純資産合計** | 145,673 | **154,968** |

# 連結損益計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2012年および2013年3月31日に終了した年度

百万円

| | 2011年度 | **2012年度** |
|---|---|---|
| 売上高 | 103,232 | **107,031** |
| 売上原価 | 36,926 | **40,133** |
| **売上総利益** | 66,306 | **66,897** |
| 販売費及び一般管理費 | 51,842 | **48,949** |
| **営業利益** | 14,464 | **17,948** |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 176 | **104** |
| 受取配当金 | 164 | **204** |
| 受取賃貸料 | 269 | **268** |
| 持分法による投資利益 | 26 | **39** |
| その他 | 243 | **174** |
| 営業外収益合計 | 879 | **790** |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 48 | **38** |
| 投資事業組合損失 | 17 | **17** |
| その他 | 1 | **6** |
| 営業外費用合計 | 67 | **62** |
| **経常利益** | 15,275 | **18,676** |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 21 | **0** |
| 投資有価証券売却益 | 1 | **25** |
| 特別利益合計 | 22 | **25** |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 27 | **98** |
| 投資有価証券評価損 | 7 | **—** |
| 投資有価証券売却損 | 0 | **—** |
| ゴルフ会員権評価損 | 0 | **—** |
| 特別損失合計 | 34 | **98** |
| **税金等調整前当期純利益** | 15,262 | **18,603** |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,179 | **5,869** |
| 法人税等調整額 | 851 | **312** |
| 法人税等合計 | 6,031 | **6,181** |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 9,231 | **12,422** |
| **当期純利益** | 9,231 | **12,422** |

# 連結包括利益計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2012年および2013年3月31日に終了した年度

百万円

| | 2011年度 | **2012年度** |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 9,231 | **12,422** |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 672 | **1,738** |
| 為替換算調整勘定 | (34) | **87** |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 2 | **18** |
| その他の包括利益合計 | 640 | **1,843** |
| 包括利益 | 9,871 | **14,265** |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 9,871 | **14,265** |
| 少数株主に係る包括利益 | — | **—** |

# 連結株主資本等変動計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2012年および2013年3月31日に終了した年度

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 |
|---|---|---|
| **株主資本** | | |
| 資本金 | | |
| 当期首残高 | 700 | **700** |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | **—** |
| 当期末残高 | 700 | **700** |
| 資本剰余金 | | |
| 当期首残高 | 4,752 | **4,752** |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | **—** |
| 当期末残高 | 4,752 | **4,752** |
| 利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 106,928 | **112,797** |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | (3,362) | **(3,362)** |
| 当期純利益 | 9,231 | **12,422** |
| 当期変動額合計 | 5,868 | **9,059** |
| 当期末残高 | 112,797 | **121,856** |
| 自己株式 | | |
| 当期首残高 | (304) | **(318)** |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | (13) | **(4)** |
| 当期変動額合計 | (13) | **(4)** |
| 当期末残高 | (318) | **(323)** |
| 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 112,076 | **117,931** |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | (3,362) | **(3,362)** |
| 当期純利益 | 9,231 | **12,422** |
| 自己株式の取得 | (13) | **(4)** |
| 当期変動額合計 | 5,854 | **9,054** |
| 当期末残高 | 117,931 | **126,985** |
| **その他の包括利益累計額** | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | (137) | **537** |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 674 | **1,756** |
| 当期変動額合計 | 674 | **1,756** |
| 当期末残高 | 537 | **2,293** |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 当期首残高 | (232) | **(267)** |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | (34) | **87** |
| 当期変動額合計 | (34) | **87** |
| 当期末残高 | (267) | **(180)** |
| その他の包括利益累計額合計 | | |
| 当期首残高 | (370) | **269** |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 640 | **1,843** |
| 当期変動額合計 | 640 | **1,843** |
| 当期末残高 | 269 | **2,113** |
| **純資産合計** | | |
| 当期首残高 | 111,706 | **118,201** |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | (3,362) | **(3,362)** |
| 当期純利益 | 9,231 | **12,422** |
| 自己株式の取得 | (13) | **(4)** |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 640 | **1,843** |
| 当期変動額合計 | 6,494 | **10,898** |
| 当期末残高 | 118,201 | **129,099** |

# 連結キャッシュ・フロー計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2012年および2013年3月31日に終了した年度

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 |
|---|---|---|
| **営業活動によるキャッシュ・フロー** | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 15,262 | **18,603** |
| 減価償却費 | 2,363 | **2,738** |
| のれん償却額 | 147 | **128** |
| 貸倒引当金の増加(減少)額 | (7) | **(302)** |
| 賞与引当金の増加(減少)額 | (110) | **211** |
| 退職給付引当金の増加(減少)額 | (816) | **(1,010)** |
| 役員退職慰労引当金の増加(減少)額 | 8 | **1** |
| 持分法による投資損益(利益) | (26) | **(39)** |
| 受取利息及び受取配当金 | (340) | **(308)** |
| 支払利息 | 48 | **38** |
| 固定資産除売却損益(利益) | 5 | **98** |
| 投資有価証券売却損益(利益) | (1) | **(25)** |
| 投資有価証券評価損益(利益) | 7 | **—** |
| 売上債権の(増加)減少額 | (2,474) | **(1,480)** |
| たな卸資産の(増加)減少額 | (374) | **800** |
| 仕入債務の増加(減少)額 | (1,809) | **(486)** |
| 未払消費税等の増加(減少)額 | (238) | **(144)** |
| その他 | 3,451 | **(2,956)** |
| 小計 | 15,098 | **15,865** |
| 利息及び配当金の受取額 | 369 | **323** |
| 利息の支払額 | (48) | **(21)** |
| 法人税等の支払額 | (6,505) | **(4,623)** |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 8,913 | **11,544** |
| **投資活動によるキャッシュ・フロー** | | |
| 定期預金の預入による支出 | (822) | **(1,328)** |
| 定期預金の払戻による収入 | 1,057 | **1,139** |
| 有価証券の取得による支出 | (799) | **(5,995)** |
| 有価証券の売却及び償還による収入 | — | **2,402** |
| 有形固定資産の取得による支出 | (1,686) | **(5,972)** |
| 有形固定資産の売却による収入 | 25 | **0** |
| 無形固定資産の取得による支出 | (357) | **(344)** |
| 投資有価証券の取得による支出 | (7,427) | **(3,501)** |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | 5,121 | **6,853** |
| その他 | (36) | **(441)** |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | (4,926) | **(7,187)** |
| **財務活動によるキャッシュ・フロー** | | |
| 短期借入金の純増加(減少)額 | (3,840) | **(1,675)** |
| ファイナンス・リース債務の返済による支出 | (43) | **(70)** |
| 長期借入れによる収入 | 200 | **360** |
| 長期借入金の返済による支出 | (328) | **(386)** |
| 社債の償還による支出 | (30) | **—** |
| 自己株式の純増加(減少)額 | (12) | **(2)** |
| 配当金の支払額 | (3,357) | **(3,357)** |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | (7,412) | **(5,132)** |
| **現金及び現金同等物に係る換算差額** | (29) | **108** |
| **現金及び現金同等物の増加(減少)額** | (3,454) | **(667)** |
| **現金及び現金同等物の期首残高** | 26,665 | **23,210** |
| **現金及び現金同等物の期末残高** | 23,210 | **22,543** |

# 個別貸借対照表 キョーリン製薬ホールディングス株式会社

2012年および2013年3月31日現在

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 |
|---|---|---|
| **資産の部** | | |
| **流動資産** | 9,140 | **14,938** |
| 現金及び預金 | 8,259 | **10,112** |
| 前払費用 | 66 | **79** |
| 未収還付法人税等 | 668 | **2,584** |
| 短期貸付金 | — | **2,000** |
| 繰延税金資産 | 133 | **138** |
| その他 | 12 | **22** |
| **固定資産** | 80,958 | **84,649** |
| **有形固定資産** | 245 | **871** |
| **無形固定資産** | 198 | **512** |
| **投資その他の資産** | 80,514 | **83,265** |
| **資産合計** | 90,099 | **99,587** |
| | | |
| **負債の部** | | |
| **流動負債** | 586 | **466** |
| **固定負債** | 8 | **7** |
| **負債合計** | 594 | **474** |
| **純資産の部** | | |
| **株主資本** | 89,504 | **99,112** |
| **純資産合計** | 89,504 | **99,112** |
| **負債純資産合計** | 90,099 | **99,587** |

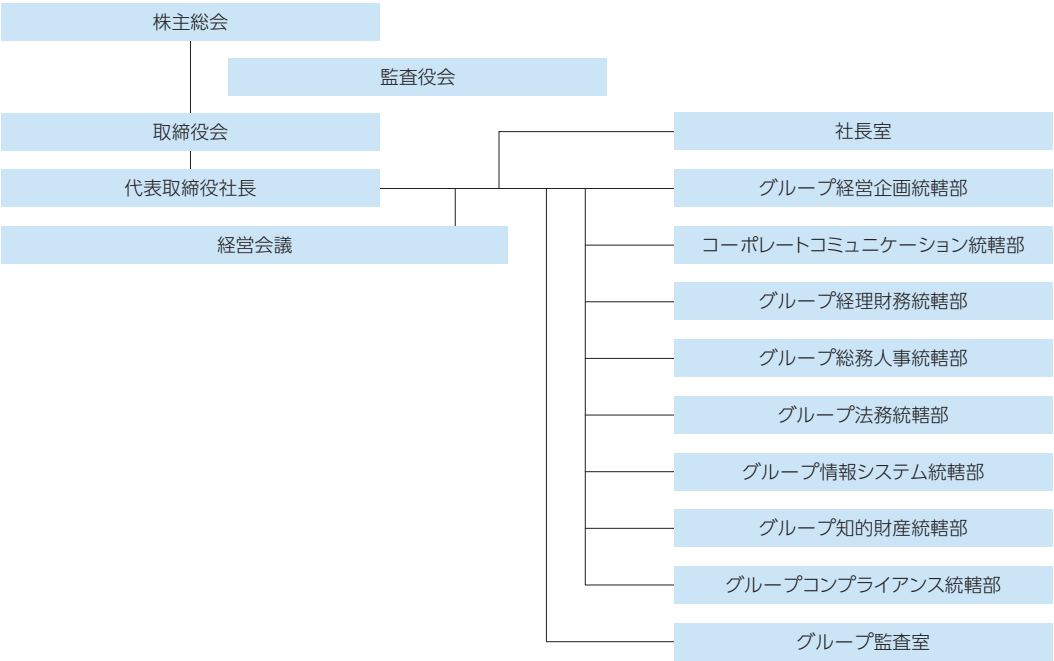
# 個別損益計算書

2012年および2013年3月31日に終了した年度

百万円

| | 2011年度 | 2012年度 |
|---|---|---|
| **営業収益** | 6,139 | **15,654** |
| 営業費用 | 2,650 | **2,476** |
| **営業利益** | 3,489 | **13,178** |
| 営業外収益 | 33 | **38** |
| **経常利益** | 3,523 | **13,126** |
| 特別利益 | — | **—** |
| 特別損失 | 7 | **185** |
| **税引前当期純利益** | 3,515 | **13,031** |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3 | **27** |
| 法人税等調整額 | 97 | **29** |
| **当期純利益** | 3,414 | **12,973** |

# キョーリン製薬ホールディングス(株)組織図 (2013年6月25日現在)




# 主な子会社・関連会社 (2013年7月現在)

## 連結子会社

**杏林製薬株式会社**
資本金　43億17百万円(出資比率100%)
本社　〒101-8311　東京都千代田区神田駿河台4-6
事業内容　医薬品の製造販売

**キョーリン メディカルサプライ株式会社**
資本金　4億88百万円(出資比率100%)
本社　〒160-0023　東京都新宿区西新宿6-25-13　キョーリン西新宿ビル
事業内容　販売促進・広告の企画、制作など

**キョーリン リメディオ株式会社**
資本金　12億円(出資比率100%)
本社　〒920-0017　石川県金沢市諸江町下丁287-1
事業内容　医薬品の製造販売

**ドクタープログラム株式会社**
資本金　2億51百万円(出資比率100%)
本社　〒160-0023　東京都新宿区西新宿6-25-13　キョーリン西新宿ビル
事業内容　スキンケア商品の開発と販売

**キョーリン製薬グループ工場株式会社**
資本金　4億50百万円(出資比率100%)
本社　〒528-0061　滋賀県甲賀市水口町笹が丘1-4
事業内容　医薬品等の製造、販売など

## 杏林製薬株式会社 子会社

**Kyorin USA, Inc.**
資本金　50万US$(出資比率100%)
本社　500 Frank W. Burr Boulevard, Teaneck, New Jersey 07666, U.S.A
事業内容　他社技術などの調査・分析、臨床試験に関する情報収集

**Kyorin Europe GmbH**
資本金　5万EURO(出資比率100%)
本社　Kaiserstrasse 8, 60311 Frankfurt am Main, Germany
事業内容　他社技術などの調査・分析、臨床試験に関する情報収集

**ActivX Biosciences, Inc.**
資本金　1US$(出資比率100%)
本社　11025 N. Torrey Pines Rd., La Jolla, CA 92037, U.S.A
事業内容　医薬品の候補化合物の探索研究と化合物の評価

## 持分法適用関連会社

**日本理化学薬品株式会社**
資本金　4億11百万円(出資比率29.2%)
本社　〒103-0023　東京都中央区日本橋本町4-2-2
事業内容　医薬品・試薬・中間薬品などの製造販売

# 会社情報 (2013年3月31日現在)

| | |
|---|---|
| キョーリン製薬ホールディングス株式会社 | 本社<br>〒101-8311　東京都千代田区神田駿河台4-6<br>電話：03-3525-4700（代表）<br>URL：http://www.kyorin-gr.co.jp/ |
| 設立 | 昭和33年（1958年） |
| 資本金 | 7億円 |
| 発行済株式総数 | 74,947,628株 |
| 株主数 | 5,276名 |

| 大株主 | | 持株比率 |
|---|---|---|
| | 株式会社アプリコット | 6.67% |
| | 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） | 4.91% |
| | 荻原　淑子 | 3.90% |
| | 株式会社鶴亀 | 3.86% |
| | 株式会社マイカム | 3.66% |
| | 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） | 3.53% |
| | 荻原　弘子 | 3.00% |
| | 荻原　年 | 2.97% |
| | 株式会社バンリーナ | 2.60% |
| | 株式会社アーチァンズ | 2.60% |

| | |
|---|---|
| 上場取引所 | 東京証券取引所 |
| 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社<br>〒103-0028　東京都中央区八重洲1-2-1<br>電話：03-3278-8111 |

**見通しに関する注意事項**

このアニュアルレポートに記載されている、キョーリン製薬ホールディングス(株)の見通し、計画、戦略およびその他の歴史的事実に当たらないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現実入手可能な情報に基づいて、当社が現時点で合理的であると判断したものです。したがって、実際の業績は、様々な要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、競争圧力、法律および規制、製品の開発状況の変化、為替の変動などがあります。なお、業績に影響を与えうる重要な要因は、これらに限定されるものではありません。

KYORIN Holdings, Inc.

〒101-8311
東京都千代田区神田駿河台4-6
キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション統轄部　IR課
TEL　03-3525-4707
FAX　03-3525-4777
E-mail　http://www.kyorin-gr.co.jp/contact/
URL　http://www.kyorin-gr.co.jp/

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing. Naturally.

本アニュアルレポートは、植物性インキを使用しています。

Printed in Japan